

## 第4学年

### 口腔科学教育科目

保存修復学Ⅱ	163
保存修復学実習	164
歯内療法学	166
歯内療法学実習	168
歯周病学	170
歯周病学実習	172
冠橋義歯補綴学Ⅱ	173
冠橋義歯補綴学実習	175
有床義歯補綴学Ⅱ	176
有床義歯補綴学Ⅱ実習	178
口腔インプラント学	179
口腔インプラント学実習	180
口腔外科学Ⅱ	181
口腔外科学Ⅲ	183
歯科麻酔学	184
歯科矯正学	186
歯科矯正学実習	188
小児歯科学	190
小児歯科学実習	192
歯科放射線学Ⅱ	194
高齢者歯科学Ⅱ	195
障害者歯科学	196
臨床総合演習	197
C B L 演習	201
C B T 総合講義	202

## 保存修復学Ⅱ（前期・1単位）

科目責任者：山田 嘉重（修復・准教授）

科目担当者：①山田 嘉重（修復）、②菊井 徹哉（修復）、  
③田上 順次（客員）

### 1. 科目の概要

齶蝕、破折および摩耗などにより生じた自然治癒しない硬組織実質欠損に対して、病変の進行を阻止して歯の生理学的機能を回復させるとともに、審美的にも調和する生体親和性のある修復方法を研究する分野が保存修復学である。

保存修復学Ⅱでは、保存修復学Ⅰで学んだ事項を基本として新たな歯冠修復法についての講義を行う。板書、スライド、配布資料を用いた講義が主体となり、同時期に行われる保存修復学実習の修得が容易になるよう適切な単位数と履修時間で構成されている。

### 2. 一般目標

齶蝕を含む様々な硬組織疾患より生じた歯質の変色や実質欠損等の疾患に対する適切な診断と処置方法法の習得をめざす。ディプロマ・ポリシーの2：創造力と探求心、5：知識と診断能力を養い適切な歯冠修復処置法とその手技や必要な器具が的確に選択できることを目標とする。

### 3. 到達目標

- 1) コンポジットレジン修復に必要な治療用具、材料の名称と用途が説明できる。
- 2) コンポジットレジン修復窩洞の分類と特徴および形成方法が説明できる。
- 3) 直接修復法と間接修復法の種類、特徴と臨床手順が説明できる。
- 4) 裏層法と覆髄法の意義・種類と特徴が説明できる。
- 5) 裏層法と覆髄法の適応症・使用薬剤と処置手順が説明できる。
- 6) メタルインレー修復の適応症、窩洞の特徴が説明できる。
- 7) メタルインレー修復の利点・欠点および修復手技が説明できる。
- 8) コンポジットレジンインレー修復の適応症と窩洞の特徴を説明できる。
- 9) セラミックインレー修復窩洞の適応症と窩洞の特徴を説明できる。
- 10) ラミネートベニア修復の特徴、適応症、臨床手技が説明できる。
- 11) 修復物装着後の術後管理について説明できる。

### 4. 履修の進め方

講義による学習の方法は以下のごとくである。

- 1) 講義は教科書の内容をシラバスの予定に従って行なう。
- 2) 板書、スライド、配布資料等を使用して教科書の内容をよりわかりやすく解説する。
- 3) 学生は板書および配布資料に沿って独自に授業ノート等を作成し、要点および追加事項を記入する。
- 4) 学生は理解が不十分な点について適宜教員に質問して理解を深める。
- 5) 学生の授業の予習・復習の確認のため授業の前後で小試験を行うこともある。
- 6) 授業日程の間で中間試験を行い、学生各自の理解度の確認を行う。
- 7) 講義および復習を行った学習ノートは担当教員が定期的に履修状況を確認する。

### 5. 履修の準備（参考書）

シラバスを確認して、授業内容について事前に教科書を用いて予習を行う。(30分)

授業終了後、講義ノートや配布資料を用いてその日で行った講義内容を復習する。(30分から1時間程度)

### 6. 評価方法

講義期間中に中間試験（50%）、後期定期試験（50%）を行い、双方を評価資料（100%）として65点以上の得点で合格とする。

### 7. 教本

- 1) 千田 彰, 寺下正道, 寺中敏夫, 宮崎真至（編）「保存修復学 第6版」医歯薬出版 2013年版
- 2) 田上順次, 奈良陽一郎, 山本一世, 斎藤隆史（監修）「保存修復学21 第5版」永末書店 2017年版

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/5	コンポジットレジン直接修復総括	コンポジットレジン修復, 各窩洞形態と修復の実際	E-3/総XI-8, 各III-3	①
2	4/12	間接修復法概論①	間接修復法の特徴	E-3/各III-3	〃
3	4/19	間接修復法概論②	合着材と接着材の種類, 裏層, 覆髄および仮封	E-3/総XI-14	〃
4	4/26	メタルインレー修復①	メタルインレー修復の特徴, 鑄造用合金	E-3/総XI-8, 12	②
5	5/10	メタルインレー修復②	メタルインレー修復窩洞の特徴	E-3/各III-3	〃
6	5/17	メタルインレー修復③	メタルインレー修復の臨床手技	E-3/各III-3	〃
7	5/24	コンポジットレジン/セラミックインレー①	コンポジットレジンインレー修復の特徴, 適応症, 臨床手技	E-3/総XI-8, 各III-3	①
8	5/31	コンポジットレジン/セラミックインレー②	セラミックインレー修復の特徴, 適応症と窩洞	E-3/総XI-8, 各III-3	〃
9	6/7	コンポジットレジン/セラミックインレー③	セラミックインレーの製作方法・手技, 歯科用CAD/CAM製作	E-3/総XI-11, 各III-3	〃
10	6/12	間接修復法総括	間接修復法の種類と臨床手技	E-3/総XI-8, 11, 12, 14, 各III-3	②
11	6/14	中間試験	間接修復法全般	E-3/総XI-8, 11, 12, 14, 各III-3	〃
12	6/21	ベニア修復①	ベニア修復の特徴と適応症	E-3/総XI-8, 各III-3	〃
13	6/28	ベニア修復②	ベニア修復窩洞と臨床手技	E-3/総XI-8, 各III-3	〃
14	7/5	修復治療の術後管理	メンテナンス, 補修修復	E-3/各I-1, III-3	〃
15	7/12	特別講義 最新の歯冠修復法	近年求められる歯科治療	E-3/III-3	③

## 保存修復学実習（前期・1単位）

科目責任者：菊井 徹哉（修復・准教授）

科目担当者：①山田 嘉重（修復）、②菊井 徹哉（修復）、  
③佐藤 正文（非常勤）、④塩崎 洋堂（非常勤）、  
⑤大塩 健司（非常勤）

### 1. 科目の概要

保存修復学の講義で習得した齲蝕を含む硬組織疾患の治療法に対する知識や理解を模型実習を行い実際に処置法を体験することで、講義では具体的に理解が困難な箇所を含め、実際の歯の修復処置に必要な基本的な技術的理論を確実に定着させる。

そのための履修方法として硬組織疾患に対する診断と処置方法、窩洞形成法、各種修復用器材の使用法を4倍大の人工歯で基本的技術を習得した後に、実物大人工歯を歯科用マネキンに装着して実際の臨床診療に模した状況で履修していく。

### 2. 一般で目標

ディプロマ・ポリシー6にある将来歯科医師になった際に必要となる技能と治療能力の修得のために、本実習では保存修復学の領域で必要となる基本的な治療方針や治療技術の修得を目標とする。

### 3. 到達目標

- 1) 硬組織の切削および修復物の研削に必要な器械と器具を適切に操作する。
- 2) 施術部位に対応した診察位置と姿勢をとり、器具を適切に保持し操作する。
- 3) 感染菌質の判別と適切な除去を施術する。
- 4) 各種疾患の病態と修復法に対応した窩洞設計と窩洞形成を施術する。
- 5) 歯髄保護処置を適切に施術する。
- 6) コンポジットレジンおよびガラスアイオノマーセメント修復のための前準備、填塞、仕上げ研磨を適切に施術する。
- 7) メタルインレー修復のための窩洞形成、印象・咬合採得、仮封、インレー体の試適・装着、口腔内で必要な研磨を適切に施術する。
- 8) メタルインレー修復のための咬合模型、ロウ型、鋳造体の製作など、一連の技工操作を適切に施術する。

### 4. 履修の進め方

- 1) 実習前に実習帳をあらかじめ読んでおき、当日行う実習内容を理解しておく。（20分程度）
- 2) 実習開始前に行われる当日行う実習内容の説明と注意事項の説明を十分に理解してから実習を開始する。
- 3) 使用器材は実習開始時まで準備しておき、迅速に実習が開始できるようにする。
- 4) 窩洞の基本設計と形成は4倍大の人工歯を用いて行う。
- 5) 臨床を模した窩洞形成、修復実習は実物大人工歯をマネキンに装着して行う。
- 6) 実習課題の各ステップ毎に班の指導教員の確認と検印を受けながら的確に課題内容を習得する。

### 5. 履修の準備（参考書）

保存修復学ⅠおよびⅡの講義内容を十分に予習してから実習に臨み、実習終了後には、その日で学んだ項目を保存修復学講義で使用した教科書や講義ノートを参考に復習する。

### 6. 評価方法

実習の評価は、4倍大人工歯を用いた窩洞形成、実物大人工歯を用いた形成窩洞と修復物に関する評価（60%）と、実技試験（40%）を行い実習内容が十分に理解され、確実に施術できることを試験する。双方を合計して100%として65点以上の得点で合格とする。

### 7. 教本

平成29年度保存修復学模型実習指針帳（実習書：教室編集）

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	4/5	器材検査, 4倍大石膏歯での窩洞形成①	①実習器材の点検②メタルインレー修復：窩洞の設計, 形成	E-3/必15, 各Ⅲ-3	① ⑤
4 5 6	4/12	4倍大石膏歯での窩洞形成②	コンポジットレジン修復窩洞の設計, 形成：class Ⅲ, class V	E-3/各Ⅲ-3	〃
7 8 9	4/19	4倍大石膏歯での窩洞形成③	レジン（セラミックス）インレー修復, 窩洞の設計, 形成：class Ⅱ	E-3/各Ⅲ-3	〃
10 11 12	4/26	等倍大人工歯での直接修復法	コンポジットレジン修復窩洞形成と修復：class Ⅲ, class V	E-3/各Ⅲ-3	〃
13 14 15	5/10	齲蝕菌質の除去	咬合面小窩裂溝齲蝕における齲蝕菌質の検知と除去	E-3/各Ⅲ-3	〃
16 17 18	5/17	間接修復法Ⅰメタルインレー修復①	メタルインレー修復class Ⅱ窩洞, 設計と形成	E-3/各Ⅲ-3	〃
19 20 21	5/24	間接修復法Ⅰメタルインレー修復②等倍大人工歯	メタルインレー修復印象採得～歯列模型製作	E-3/各Ⅲ-3	〃
22 23 24	5/31	間接修復法Ⅰメタルインレー修復③等倍大人工歯	メタルインレー修復咬合模型～鋳原型製作	E-3/各Ⅲ-3	〃
25 26 27	6/7	間接修復法Ⅰメタルインレー修復④等倍大人工歯	メタルインレー修復鋳型製作～鋳造・研磨	E-3/各Ⅲ-3	〃
28 29 30	6/12	間接修復法Ⅰメタルインレー修復⑤等倍大人工歯	メタルインレー修復口腔内試適～インレー装着	E-3/各Ⅲ-3	〃
31 32 33	6/14	間接修復法Ⅱレジンインレー修復①	レジンインレー修復class Ⅱ窩洞, 設計と形成	E-3/各Ⅲ-3	〃
34 35 36	6/21	間接修復法Ⅱレジンインレー修復②	レジンインレー修復印象採得～咬合模型製作	E-3/各Ⅲ-3	〃
37 38 39	6/28	間接修復法Ⅱレジンインレー修復③	レジンインレー修復インレー体の調整～口腔内装着	E-3/各Ⅲ-3	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
40 41 42	7 / 5	象牙質知覚過敏の処置レジン修復の臨床	①医療用レーザー体験実習 ②レジン修復の臨床技能・術式	E-3 / 各Ⅲ-3	① ⑤
43 44 45	7 / 12	実習試験作品提出	筆記試験および実技試験、提出物の確認	E-3 / 各Ⅲ-3	〃

# 歯内療法学 (通年・3単位)

科目責任者：木村 裕一 (歯内・教授)

科目担当者：①木村 裕一 (歯内)、②佐々木重夫 (歯内)、  
③佐藤 穂子 (歯内)、④長崎 慶太 (歯内)

## 1. 科目の概要

歯内療法学とは、歯の硬組織、歯髄および根尖歯周組織などの疾病に対する診断と治療に関する研究を行う学問である。歯の硬組織疾患は、そのまま放置すれば歯質欠損を生じ、歯髄の露出をきたすとともに歯髄が感染に陥り、その結果として軽重さまざまな歯髄疾患が発症し、さらに根尖周囲に炎症が波及して根尖性歯周組織疾患を継発することになる。したがって、本講義では歯内療法に関する診査、診断、処置、予防を確実に学ぶ必要がある。

## 2. 一般目標

歯の硬組織、歯髄および根尖性歯周組織疾患などに対する診断、治療そして予防を行うために必要な基本的知識および能力を修得する。(ディプロマポリシー5)

## 3. 到達目標

- 歯・歯周組織の構造と機能、歯の硬組織疾患を分類してその特徴や発生原因、症状、そして処置法を説明する。
- 歯内治療における各種の基本術式、歯髄疾患を分類して原因、臨床症状、進行と経過、診査・検査法、そして治療法を説明する。
- 根尖性歯周組織疾患を分類し、進行と経過、診査・検査し、診断法、そして治療法を説明する。
- 根管処置(髄室開拓、根管長測定法と作業長の決定、機械的清掃)、根管処置(化学的清掃と根管洗浄、根管貼薬、内容物検査、補助療法)について説明する。
- 根管充填の目的と意義、時期、根管充填材の所要性質と種類、根管充填の術式、そして根管充填後の治癒経過について説明する。
- 根末完成歯の治療、歯根の病的吸収の分類、原因、症状と診断、処置について説明する。
- 外傷歯の分類、診断と治療、外科的歯内治療の種類、術式について説明する。
- 顕微鏡を応用した歯内治療、変色歯の原因と漂白法について説明する。
- 歯内・歯周疾患、高齢者の歯内治療、根管処置後の歯冠修復について説明する。
- 歯内治療における偶発事故の種類とその安全対策について説明する。

## 4. 履修の進め方

講義は板書またはスライドを使用して教科書を併用しながら行い、できるだけ双方向の授業を行う。学生は実際に講義に出席し、集中して聴いてノートを取り、講義内容の理解を深めるようにする。事前に予習し、書き出しておいた疑問点が解消されなければ講義中に質問し、疑問点を解消できるようにする。

## 5. 履修の準備(参考書)

本科目を履修する前に口腔解剖学、歯科理工学、病理学、薬理学などを理解しておく必要がある。保存系(保存修復学、歯周病学)と小児歯科学とは繋がりが深い。講義が終了したらその日のうちに復習して記憶を定着させる。

参考書：興地隆史、須田英明、中村 洋 編集主幹、阿南 壽、五十嵐 勝、石井信之、勝海一郎、林 美加子、松島 潔 編集、第4版 エンドドンティクス、永末書店

## 6. 評価方法

前期と後期の講義が終了した後、講義内容について論述試験を実施し、理解度に関する総括的評価を行う。評価は定期

試験により行う。前期と後期の比重は試験範囲を考慮して計算し、総合で65点以上を合格とする。

## 7. 教本

中村 洋、須田英明、勝海一郎、興地隆史 編 第4版「歯内治療学」医歯薬出版

## 8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	歯内療法学の概念	歯内療法学の歴史、定義、意義ならびに目的	E-3/必17-ア,イ	①
2	4/10	歯・歯周組織の構造と機能(1)	歯の硬組織の構造と発生、歯髄の構造と機能	E-3-1/必7-1,6-ウ,総4-ア	③
3	4/17	歯・歯周組織の構造と機能(2)	歯周組織の構造と機能、歯根と歯髄腔の形態変化	E-3-1/必7-ウ,総IV-4	〃
4	4/17	歯の硬組織疾患(1)	歯の形態異常、歯の形成不全	E-3-2/必9-1,各Ⅲ-2-ウ	②
5	4/17	歯の硬組織疾患(2)	歯の物理的、化学的欠損	E-3-3/必9-1	〃
6	4/17	歯の硬組織疾患(3)	齲蝕症、象牙質知覚過敏症	E-3-3/必14-1,各Ⅲ-5-ア	〃
7	4/24	歯内治療の基本術式の概要(1)	各種の口腔診査法	E-3-3/必11-エ	③
8	4/24	歯内治療の基本術式の概要(2)	無菌的処置法	E-3-3/必15-ク	〃
9	5/8	歯内治療の基本術式の概要(3)	除痛法	E-3-3/必15-コ	〃
10	5/8	歯内治療の基本術式の概要(4)	齲蝕の処置法、仮封処置	E-3-3/必15-ソ	〃
11	5/8	歯髄疾患(1)	歯髄疾患の臨床的分類、原因、臨床的症状	E-3-3/必10-ク,各Ⅲ-5	①
12	5/8	歯髄疾患(2)	歯髄疾患の特徴と経過、歯髄疾患の診査・検査	E-3-3/必11-エ	〃
13	5/15	歯髄疾患(3)	歯髄疾患の診査・検査、歯痛錯誤と関連痛	E-3-3/必15-タ	〃
14	5/15	歯髄疾患(4)	歯髄疾患の治療法(1)(保存療法)	E-3-3/必15-タ,各Ⅲ-6-1	〃
15	5/22	歯髄疾患(5)	歯髄疾患の治療法(2)(保存療法)	E-3-3/必15-タ,各Ⅲ-6-1	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
16	5/22	歯髄疾患(6)	歯髄疾患の治療法(3)(保存療法)	E-3-3/必15-タ,各Ⅲ-6-ウ	①
17	5/29	歯髄疾患(7)	歯髄疾患の治療法(4)(除去療法)	E-3-3/必15-タ,各Ⅲ-6-ウ	〃
18	5/29	根尖性歯周組織疾患(1)	根尖性歯周組織疾患の概要,原因	E-3-3/各Ⅲ-5-ウ,キ	②
19	6/5	根尖性歯周組織疾患(2)	根尖性歯周組織疾患の臨床的分類	E-3-3/各Ⅲ-5-ウ	〃
20	6/5	根尖性歯周組織疾患(3)	根尖性歯周組織疾患の進行と経過	E-3-3/必9-イ,各Ⅲ-5-ウ	〃
21	6/12	根尖性歯周組織疾患(4)	根尖性歯周組織疾患の診査・検査	E-3-3/必10-ク,各Ⅲ-5-ウ	〃
22	6/12	根尖性歯周組織疾患(5)	根尖性歯周組織疾患の臨床病理と臨床症状	E-3-3/必11-エ,各Ⅲ-5-ウ	〃
23	6/19	根尖性歯周組織疾患(6)	根尖性歯周組織疾患の診断法と治療方針	E-3-3/必15-ツ,各Ⅲ-6-エ	〃
24	6/19	根管処置(1)	根管処置,根管長測定法と作業長の決定	E-3-3/各Ⅲ-6-オ	③
25	6/26	根管処置(2)	根管形成(1)	E-3-3/各Ⅲ-6-オ	〃
26	6/26	根管処置(3)	根管形成(2)	E-3-3/各Ⅲ-6-オ	〃
27	7/3	根管処置(4)	根管の化学的清掃,根管の消毒(根管貼薬)	E-3-3/各Ⅲ-6-オ	〃
28	7/3	根管処置(5)	根管内容物の検査,根管治療の補助療法	E-3-3/各Ⅲ-6-オ	〃
29	7/10	根管充填(1)	根管充填の目的,時期,根管充填材の所要性質	E-3-3/必15-マ-,各Ⅲ-6-カ	①
30	7/10	根管充填(2)	根管充填材の種類	E-3-3/各Ⅲ-6-カ	〃
31	9/5	根管充填(3)	根管充填の術式(1)	E-3-3/各Ⅲ-6-カ	〃
32	9/12	根管充填(4)	根管充填の術式(2)	E-3-3/各Ⅲ-6-カ	〃
33	9/19	根管充填(5)	根管充填後の治療経過	E-3-3/各Ⅲ-6-カ	〃
34	9/26	根未完成歯の治療	アペキシゲネーシスとアペキシフィケーション	E-3-3/各Ⅲ-4-ウ,エ,6-キ	②
35	10/3	歯根の病的吸収	病的歯根吸収の分類,歯根吸収の症状と診断処置	E-3-3/各Ⅲ-5-カ,6-サ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
36	10/10	外傷歯の診断と処置	外傷歯の分類,診断,治療	E-3-3/各Ⅲ-5-オ,6-コ,IV-8-ア	②
37	10/17	外科的歯内治療(1)	外科的歯内治療の適応症と種類と術式	E-3-3/各Ⅲ-6-シ	①
38	10/24	外科的歯内治療(2)	外科的歯内治療の治療機転と予後	E-3-3/各Ⅲ-6-シ	〃
39	10/31	顕微鏡を応用した歯内治療	顕微鏡による検査,処置の特徴,適応例	E-3-3/各Ⅲ-6-ス	②
40	11/7	変色歯の漂白	歯の変色の原因,漂白処置の適応症,漂白法	E-3-3/各Ⅲ-3-キ	④
41	11/14	歯内・歯周疾患	歯内・歯周疾患の分類,診査・検査と治療法	E-3-3/各Ⅲ-5-エ,6-ケ	〃
42	11/21	高齢者の歯内治療	高齢者の歯内治療の違い,形態学的特徴	E-3-3/各Ⅵ-2-ア,イ,ウ	〃
43	11/28	根管処置後の歯冠修復	支台築造と歯冠修復(各種材料による支台築造)	E-3-4/各Ⅲ-6-ソ	〃
44	12/5	歯内治療における安全対策(1)	髓室壁・根管壁の穿孔,小器具の根管破折など	E-3-3/各Ⅲ-6-セ	〃
45	12/12	歯内治療における安全対策(2)	皮下気腫,歯性上顎洞炎,根管処置時の全身管理	E-3-3/各Ⅲ-6-セ	〃

## 歯内療法学実習（後期・1単位）

科目責任者：木村 裕一（歯内・教授）

科目担当者：①木村 裕一（歯内）、②佐々木重夫（歯内）、  
③佐藤 穂子（歯内）、④長崎 慶太（歯内）、  
⑤山崎 信夫（非常勤）、⑥山田 眞義（非常勤）

### 1. 科目の概要

講義で修得した知識を整理しながら、基本的な歯内治療の術式を実践することを目的とする。歯内療法学の実習は、透明人工根管を用いて根管形成と根管充填および髄腔根管模型を用いて根管口明示を実施、理解して実際に行った後の根管模型から各自の技術的な欠点を十分に理解し納得させる。その後、複製根髄腔模型歯を植立した顎模型をマネキンに装着して水平位診療姿勢でラバーダム防湿を実施した後、一連の根管治療を行い、エックス線写真を撮影して根管充填の良否を判断できるようにする。講義で修得した知識やこの実習で実施した技術や術式を通して修得した技能、そして態度をより完全にして臨床実習に望むためにこの実習を行う。

### 2. 一般目標

臨床において根管治療を行うために必要なラバーダム防湿、根管形成および根管充填に関する基本的な知識と技能の確認を、さまざまな植立模型歯の顎模型を用いてマネキンに装着し、患者とみなして修得する。また、マネキンを患者とみなしているため、患者に対する態度も修得する。（ディプロマ・ポリシー6）

### 3. 到達目標

- 1) 根管の形態を図示し、説明する。
- 2) 根管形成に必要な器具を準備し、器具の名称と使用法を説明する。
- 3) 根管充填に必要な器具を準備し、器具の名称と使用法を説明する。
- 4) 根管治療に必要な器具の名称とそれぞれの器具の操作法を説明し、使用する。
- 5) ラバーダム防湿に必要な器具を準備し、器具の名称と手順を述べ、実施する。
- 6) 根管形成の手順を述べ、術式を実施する。
- 7) 根管充填の術式を述べ、実施する。
- 8) エックス線写真を撮影し根管充填の良否を判断する。
- 9) 根管充填し仮封後の対合関係を調整する。
- 10) 全実習に出席し、基本的な術式を実施する。

### 4. 履修の進め方

7～8名の学生に1～2名の教員が指導する。ステップごとにチェック、検印をもらう。あらかじめ実習内容について予習し、必要な機材を用意しておく。また実習中に疑問点があれば質問する。実習では正しい器具を選択して使用し、実習書や教科書に記載してある術式通りに行く。

### 5. 履修の準備（参考書）

本科目を履修する前に口腔解剖学、歯科理工学、病理学、薬理学などを理解しておく必要がある。保存系（保存修復学、歯周病学）と小児歯科学とは繋がりが深い。実習が終了したらその日のうちに復習して記憶を定着させる。

参考書：興地隆史、須田英明、中村 洋 編集主幹、阿南 壽、五十嵐 勝、石井信之、勝海一郎、林 美加子、松島 潔 編集、第4版 エンドドンティクス、永末書店

### 6. 評価方法

それぞれの課題のステップごとに基準を満たしているものに対して各インストラクターが評価して検印し、さらにそれぞれの課題が終了するごとに作品を提出させ、実習責任者が全作品を採点し、技能評価とする。技能評価（80%）、レポート評価（20%）により評価し、65点以上を合格とする。

### 7. 教本

Practice in root canal preparation and filling（実習書）  
中村 洋、須田英明、勝海一郎、興地隆史 編 第4版  
「歯内治療学」医歯薬出版（教科書）

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	9/7	器材チェックと透明根管模型を用いた根管形成	窩洞外形の設定、チャンネルオープン、便宜形態の形成、根管口明示(部位16)	F-3-(3)／必-15-タ、各Ⅲ-6-ウ	① ⑥
4 5 6	9/14	透明根管の根管形成	アピカルシート、アピカルカラー、フレアー形成、アピカルシートの確認	F-3-(3)／必-15-タ、各Ⅲ-6-ウ	〃
7 8 9	9/21	透明根管模型の根管充填	メインポイントの試適、側方加圧根管充填、二重仮封	F-3-(3)／必-15-タ、各Ⅲ-6-ウ	〃
10 11 12	9/28	髄腔模型を用いた根管口明示	ラバーダム防湿、窩洞外形の設定、天蓋除去、便宜形態の形成(部位14と36)	F-3-(3)／必-15-タ、各Ⅲ-6-ウ	〃
13 14 15	10/5	髄腔模型を用いた根管口明示	ラバーダム防湿、窩洞外形の設定、天蓋除去、便宜形態の形成(部位14と36)	F-3-(3)／必-15-タ、各Ⅲ-6-ウ	〃
16 17 18	10/12	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成	根管長測定、ラバーダム防湿、窩洞外形の設定、根管口明示(部位11、24、26、46)	F-3-(3)／必-15-タ、各Ⅲ-6-ウ	〃
19 20 21	10/19	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成	ラバーダム防湿、根管口明示、根管長測定、根管形成(部位11、24、26、46)	F-3-(3)／必-15-タ、各Ⅲ-6-ウ	〃
22 23 24	10/26	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成	ラバーダム防湿、根管口明示、根管長測定、根管形成(部位11、24、26、46)	F-3-(3)／必-15-タ、各Ⅲ-6-ウ	〃
25 26 27	11/2	複製根髄腔模型歯を用いた根管形成	アピカルシートの確認、根管形成完了の確認、エックス線撮影(リーマー試適)	F-3-(3)／必-15-タ、各Ⅲ-6-ウ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
28 29 30	11/9	複製根髄腔模 型歯を用いた 根管形成	アピカルシー トの確認、根 管形成完了の 確認、エック ス線撮影(リー マー試適)	F-3-(3)/必 -15-タ、各Ⅲ -6-ウ	① ⑥
31 32 33	11/16	複製根髄腔模 型歯を用いた 根管形成	エックス線撮 影(術中)、根 管充填、エッ クス線撮影 (術後)、二重 仮封	F-3-(3)/必 -15-タ、各Ⅲ -6-ウ	〃
34 35 36	11/30	複製根髄腔模 型歯を用いた 根管形成	根 管 充 填、 エックス線撮 影(根管充填 の否確認)、 二重仮封	F-3-(3)/必 -15-タ、各Ⅲ -6-ウ	〃
37 38 39	12/7	複製根髄腔模 型歯を用いた 根管形成	根 管 充 填、 エックス線撮 影(根管充填 良否確認)、 二重仮封	F-3-(3)/必 -15-タ、各Ⅲ -6-ウ	〃
40 41 42	12/14	複製根髄腔模 型歯を用いた 根管充填材除 去	ラバーダム防 湿、仮封と根 充 材 除 去、 エックス線撮 影(根充材除 去の確認)	F-3-(3)/必 -15-タ、各Ⅲ -6-ウ	〃
43 44 45	12/21	ラバーダム防 湿法の実施手 順	実施内容の説 明、ラバーダ ムシートの手 順通り実施	F-3-(3)/必 -15-タ、各Ⅲ -6-ウ	〃

## 歯周病学 (通年・3単位)

科目責任者：高橋 慶壮 (歯周・教授)

科目担当者：①高橋 慶壮 (歯周), ②小林 之直 (非常勤),  
③大塩 薫里 (非常勤), ④田中 直喜 (非常勤)

### 1. 科目の概要

歯周病は「感染症」から「生活習慣病」へと疾患の位置づけが変化し、歯周治療は患者教育、原因除去およびリスク評価に基づくリスク管理を主眼においた歯周基本治療、歯周外科療法および歯周補綴、そして予防を主体としたメンテナンスに分けられる。講義では歯周組織の構造と機能、歯周疾患の病因と病態、歯周疾患の診断、歯周治療の術式と適応症等を学ぶ。さらに、歯周病学の研究と臨床の軸足が「歯周医学」「歯周組織再生療法」および「口腔インプラント治療」へとシフトしているため、3つの項目についても講義を行う。

### 2. 一般目標

歯周病の診断、治療および予防を行うために、歯周組織の常態、疾患、診断および治療方法を理解する (ディプロマポリシー5)

### 3. 到達目標

- 1) 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。
- 2) 歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- 3) 病因としての口腔細菌、歯垢および歯石を説明できる。
- 4) 歯周疾患の症状を説明できる。
- 5) 歯周疾患の診断と治療方針を説明できる。
- 6) 歯周治療の術式と適応症を説明できる。
- 7) 歯周外科手術の種類と適応症を説明できる。
- 8) 歯周治療後の組織の治癒機転と予後を説明できる。
- 9) 歯周疾患の緊急処置の種類と方法を説明できる。
- 10) 歯周疾患の予防を説明できる。

### 4. 履修の進め方

教科書、プリントおよびスライドを用いた講義を行う。寺子屋方式で知識を一方的に伝授するだけではなく、双方向的な講義形成をとる。

### 5. 履修の準備 (参考書)

歯周治療 失敗回避のためのポイント33 クインテッセンス出版

エンド・ペリオ病変の臨床 歯内-歯周複合病変 診断と治療のストラテジー 医歯薬出版

### 6. 評価方法

前期と後期の講義終了後、講義内容について記述式試験を実施し、理解度を評価する。出席状況・授業態度 (10%) とし、定期試験欠席者に対しては追試験を行う。また、必要に応じて再試験を行う。65点以上を合格とする。

### 7. 教本

臨床歯周病学 第2版 医歯薬出版

### 8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/7	歯周病学の概要	歯周病学と歯周治療学の概要	E-3 / 総VI-11イ	①
2	4/7	歯周組織の構造と機能	正常歯周組織のマクロおよびミクロの解剖学	E-3-1)-⑤ / 総IV4-カ, キ, ケ, コ	〃
3	4/14	歯周病の病因	プラーク, バイオフィーム 歯垢と歯石	E-3-2)-⑤ / 必3-ケb 総IV5-ウ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4	4/14	歯周病の病因	修飾因子	E-3-2)-④ / 総VI-6ウ	①
5	4/21	リスクファクター	歯ぎしり, 喫煙, 糖尿病, ストレス	E-3-2)-④ / 各III-8エ	〃
6	4/21	リスクファクター	遺伝的素因, 侵襲性歯周炎 全身疾患	E-3-2)-④ / 各III-8エ	〃
7	4/28	炎症および免疫応答	生体防御細胞, 細胞性および体液性免疫応答	E-3-2)-④ / 必6-アf	〃
8	4/28	歯周疾患の症候と病態	歯周ポケットの分類	E-3-3)-(3)-② / 各III-8ア, イ, ウ	〃
9	5/12	歯周病の分類	歯肉炎, 歯周炎の特徴	E-3-3)-(3)-② / 各III-8オ	②
10	5/12	歯周病の分類	非プラーク性歯肉病変, 特殊な歯周疾患	E-3-3)-(3)-② / 総VI-11イ	〃
11	5/19	歯周医学	歯周病と全身疾患の関連性 糖尿病, 肥満	C-4-4) / 各III-8コ	①
12	5/19	歯周医学	歯周病と心血管疾患, 誤嚥性肺炎, 早産等	C-4-4) / 各III-8コ	〃
13	5/26	歯周検査	PCR, 歯肉炎指数, BOP	E-3-3)-(3)-⑥ / 各III-9ア	〃
14	5/26	歯周検査	歯周ポケットプロービング, 骨吸収指数	E-3-3)-(3)-② / 総IX-1エ	〃
15	6/2	口臭, 口呼吸	口臭および口呼吸の原因と治療法	E-3-3)-(3)-② / 各I-4ア, イ, ウ	〃
16	6/2	臨床推論	臨床の思考法, アブダクション	E-3-3)-(3)-② / 各III	〃
17	6/9	歯周基本治療	救急処置	E-3-3)-(3)-⑥ / 各III-9ア	③
18	6/9	歯周基本治療	口腔清掃指導	E-3-3)-(3)-③ / 必3-ケa, b, c	〃
19	6/16	歯周基本治療	スケーリング, ルートプレーニング	E-3-3)-(3)-③ / 各III-9イ	①
20	6/16	歯周基本治療	ブラキシズムの病態と対処法	E-3-3)-(3)-③ / 各III-8カ	〃
21	6/23	歯周基本治療	咬合治療, 暫間固定	E-3-3)-(3)-③ / 各III-9イ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
22	6/23	歯周基本治療	抗菌療法, 局所薬物配送システム(LDDS)	E-3-3)-(3)-③/各Ⅲ-9ク	①
23	6/30	歯周基本治療	歯周一矯正治療	E-3-3)-(3)-③/各Ⅲ-9イ	〃
24	6/30	歯周基本治療	原因除去療法	E-3-3)-(3)-③/各Ⅲ-9イ	〃
25	7/3	再生医療	組織工学 (Tissue Engineering)	E-3-3)-(3)-④/総XI-16エ	〃
26	7/3	骨移植	人工骨, 異種骨, 同種骨, 自家骨の特徴と治療成績	E-3-3)-(3)-④/総XI-16ア, イ	〃
27	7/7	歯周病の疫学	歯周疾患を表す指数と指数評価	B-4-1)/総II-10サ	〃
28	7/7	EBMからみた歯周治療	歯周治療のEBMとNBM	B-4-1)-①/必12-アc, ウa	〃
29	7/14	創傷治癒	切除型, 歯周組織再生誘導法による治癒過程	E-3-3)-(3)-⑤/総VI-3オ	〃
30	7/14	歯周病の診断と治療計画	1歯ごとの診断と一口腔単位の治療計画の立案	E-3-3)-(3)-②/総X-1ア, イ, ウ, エ	〃
31	9/6	歯周外科療法	分類, 特徴および術式	E-3-3)-(3)-④/各Ⅲ-9エ	〃
32	9/13	歯周外科療法	ポケット除去療法とポケット減少療法新付着術(ENAP)	E-3-3)-(3)-④/各Ⅲ-9エ	〃
33	9/20	歯周外科療法	フラップ手術の原理と術式	E-3-3)-(3)-④/各Ⅲ-9エ	〃
34	9/27	歯周外科療法	組織再生誘導法(GTR法)再生の原理と術式	E-3-3)-(3)-④/各Ⅲ-9オ	〃
35	10/4	歯周外科療法	エナメルマトリックスタンパク質	E-3-3)-(3)-④/各Ⅲ-9オ	〃
36	10/11	歯周外科療法	歯周形成手術(遊離歯肉移植術など)	E-3-3)-(3)-④/各Ⅲ-9エ	〃
37	10/18	歯周外科療法	歯周形成手術(根面被覆)	E-3-3)-(3)-④/各Ⅲ-8ク, 9エ	〃
38	10/25	歯周-歯内複合病変	Simonの分類分類ごとの治療法と予後	E-3-3)-(3)-④/各Ⅲ-6ケ, 8ケ	③
39	11/1	根分岐部病変	根分岐部病変の分類	E-3-3)-(3)-④/各Ⅲ-9カ	①

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
40	11/8	根分岐部病変	根分岐部病変の治療	E-3-3)-(3)-④/各Ⅲ-9カ	①
41	11/15	口腔機能回復治療	歯周補綴, 永久固定	E-3-3)-(3)-③/各Ⅲ-9キ	〃
42	11/22	インプラント治療	インプラント周囲粘膜炎とインプラント周囲炎	E-3-4)-(3)/総XI-16ア, ウ	〃
43	11/29	SPT, メインテナンス	意義と実際	E-3-3)-(3)-②/各Ⅲ-9ケ	〃
44	12/6	レーザー治療	歯周治療におけるレーザーの活用	E-3-3)-(3)-②/各Ⅲ	④
45	12/13	講義のまとめ	講義の総括	コ:E-3/総VI-11イ	①

## 歯周病学実習（後期・1単位）

科目責任者：高橋 慶壮（歯周・教授）

科目担当者：①高橋 慶壮（歯周）、②小林 之直（非常勤）、  
③大塩 薫里（非常勤）、④メ谷 睦子（非常勤）  
⑤杉 祐紀（非常勤）、⑥田中 真喜（非常勤）

### 1. 科目の概要

講義の内容を踏まえて、基本的な歯周治療の知識と手技を習得することを目的とする。すなわち、歯周病の診査・診断、一口腔単位の治療計画の立案、歯周基本治療、修正治療および各種歯周外科手術に必要な術式を修得し、メンテナンスに移行できるようにする。また、歯周病が「生活習慣病」であることから、歯周治療において術者による適切な患者教育および治療、さらに患者自身による口腔管理を確立させるような指導力、説明能力およびコミュニケーション能力が要求される。

### 2. 一般目標

歯周治療を実践するために、基本となる知識、技術、態度を修得する。

（ディプロマ・ポリシー5）

### 3. 到達目標

- 1) 歯周診査を実施できる。
- 2) 歯周病の状態を診断できる。
- 3) 一口腔単位の治療計画を立案できる。
- 4) プラークコントロールレコードの記載と患者への説明ができる。
- 5) プラークの付着部位に適したブラッシング方法を患者に指導できる。
- 6) スケーリングとルートプレーニングを実施できる。
- 7) 咬合調整を実施できる。
- 8) 暫間固定を実施できる。
- 9) 基本的な歯周外科手術の適応症を説明できる。
- 10) 基本的な歯周外科手術を実施できる。

### 4. 履修の進め方

7～8名の学生に1～2名の教員が指導する。教員のデモや説明後に学生に実習させ、ステップバイステップで検印をする。

### 5. 履修の準備（参考書）

臨床歯周病学 第2版 医歯薬出版  
歯周治療 失敗回避のためのポイント33 クインテッセンス出版  
エンド・ペリオ病変の臨床 歯内一歯周複合病変 診断と治療のストラテジー 医歯薬出版  
ザ・ペリオドントロジー 永末書店

### 6. 評価方法

全出席を原則とする。欠席1回につき10点減点する。実習の各ステップごとの習得度に対するインストラクターの評価（40%）と、小テストと実習試験の結果（60%）を総合判定し、65点以上を合格とする。

### 7. 教本

歯周病学実習マニュアル2017 奥羽大学歯学部歯科保存学講座（歯周）

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	9/6	歯周診査	購入器具の確認、歯肉模型を用いた歯周診査 歯周組織像のスケッチ	E-3/総IX-1 エ	① ⑥

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4 5 6	9/13	診断・治療計画	歯肉模型を用いた歯周病の診断に基づく一口腔単位の治療計画の立案	E-3/総X-1 ア, イ, ウ, エ	① ⑥
7 8 9	9/20	歯周治療	プラークスコアの記載 OSCE形式のブラッシング指導	E-3/総IX-1 エ	〃
10 11 12	9/27	歯周治療	歯肉模型を用いた歯肉縁下ルートプレーニング(上顎)	E-3/各III-9 イ	〃
13 14 15	10/4	歯周治療	歯肉縁下ルートプレーニング(上下顎), スケーラーのシャープニング	E-3/各III-9 イ	〃
16 17 18	10/11	歯周治療	歯肉縁下ルートプレーニング(下顎), OSCE形式	E-3/各III-9 イ	〃
19 20 21	10/18	歯周治療	暫間固定および咬合調整	E-3/各III-9 イ	〃
22 23 24	10/25	診断・治療計画	歯周病の診断に基づく一口腔単位の治療計画の立案	E-3/総X-1 ア, イ, ウ, エ	〃
25 26 27	11/1	診断・治療計画	診断および治療方針の記載あるいは発表 担当教員とのディスカッション	E-3/総X-1 ア, イ, ウ, エ	〃
28 29 30	11/8	歯周病の病態説明	OSCE形式の歯周病の病態説明	E-3/総X-1 ア, イ, ウ, エ	〃
31 32 33	11/15	歯周外科	歯周外科の基本手技, 切開, 縫合, 歯肉切除術	E-3/各III-9 エ	〃
34 35 36	11/22	歯周外科	ブタ下顎骨を用いたフラップ手術	E-3/各III-9 エ	〃
37 38 39	11/29	歯周外科	ブタ下顎骨を用いたGTR法	E-3/各III-9 エ, オ	〃
40 41 42	12/6	歯周外科	ブタ下顎骨を用いた遊離歯肉移植術, 根面被覆	E-3/各III-9 エ, オ	〃
43 44 45	12/13	実習試験	実習試験	E-3/総IX-1 エ	〃

## 冠橋義歯補綴学Ⅱ（前期・2単位）

科目責任者：関根 秀志（イン・教授）

科目担当者：①関根 秀志（イン）

### 1. 科目の概要

クラウン・ブリッジは歯科治療の中でも高頻度な治療方法であることから、安全かつ確実な治療を施すためには、顎口腔系諸器官の機能や形態に関する知識の修得のみならず、使用する機械の特徴や材料の性質についても把握する必要がある。かつ歯学全般の幅広い知識と熟練した技能が必要とされる。そこで、冠橋義歯補綴学Ⅱではクラウン・ブリッジの実際の製作法から予後管理に至るまでの、治療の流れの中で重要な事項について教授する。

### 2. 一般目標

歯冠部歯質欠損および少数歯欠損による咬合・咀嚼障害や審美的障害を治療できるようになるために、クラウンおよびブリッジを応用した補綴法に必要な知識を修得する。

### 3. 到達目標

- 1) 支台歯形成の要点を説明する。
- 2) 支台築造の意義と方法を説明する。
- 3) 印象採得法と印象材の種類および所要性質を説明する。
- 4) 顎間関係の記録法とその重要性を説明する。
- 5) 作業模型の種類と要件を説明する。
- 6) インレーワックスの取り扱いとろう型形成法を説明する。
- 7) 埋没・鋳造・研磨の各ステップの要点を説明する。
- 8) 口腔内試適、調整、装着にあたっての手順と要件を説明する。
- 9) メンテナンスの重要性と装着後の問題点への対処法を説明する。

### 4. 履修の進め方

教科書を中心として、配布プリントや液晶プロジェクターの視覚素材を用いて講義する。理解度を確認するために毎回講義の最後に小テストを行う。

### 5. 履修の準備（参考書）

シラバスを確認して、次回の講義内容について教科書で予習を行う。また、小テストで間違った問題を中心に教科書等で再度確認する。

### 6. 評価方法

定期試験および適宜試験で評価する。

### 7. 教本

教科書：第5版「クラウンブリッジ補綴学」（医歯薬出版）

参考書：歯科補綴学専門用語集（医歯薬出版）

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/6	支台歯形成	支台歯形成用切削器具の特徴と形成時の注意点および基本的な支台歯形態	E-3-4)-(1) ④/各V-4-ウ	①
2	4/6	支台歯形成	支台歯形成用切削器具の特徴と形成時の注意点および基本的な支台歯形態	E-3-4)-(1) ④/各V-4-ウ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/13	印象採得	精密印象材の所要性質および前準備と印象法	E-3-4)-(1) ⑨/各V-4-カ	①
4	4/13	顎間関係の記録(咬合採得)	顎間関係の記録法と使用材料, とくにフェイスボウの使用目的	E-3-4)-(1) ⑨⑩/各V-4-ク	〃
5	4/20	作業用模型の製作	作業模型の要件と種類および製作法と咬合器付着と調整法	E-3-4)-(1) ⑦/各V-4-キ	〃
6	4/20	作業用模型の製作	作業模型の要件と種類および製作法と咬合器付着と調整法	E-3-4)-(1) ⑦/各V-4-キ	〃
7	4/27	プロビジョナルレストレーション	プロビジョナルレストレーションの臨床的意義と製作および試適, 仮着	E-3-4)-(1) ⑤/各V-4-オ	〃
8	4/27	患者情報の記録と伝達	患者情報の記録, 患者情報の伝達	E-3-4)-(1) ⑫/各V-2-イ	〃
9	5/11	ワックスパターン形成	インレーワックスの取り扱い法とワックスパターン形成法	E-3-4)-(1) ⑭/各V-4-コ	〃
10	5/11	ワックスパターン形成	インレーワックスの取り扱い法とワックスパターン形成法	E-3-4)-(1) ⑭/各V-4-コ	〃
11	5/18	埋没・鋳造	埋没材の種類と所要性質および鋳造欠陥の種類と原因	E-3-4)-(1) ⑭/各V-4-サ, シ	〃
12	5/18	熱処理・研磨	熱処理と研磨法	E-3-4)-(1) ⑭/各V-4-シ	〃
13	5/22	口腔内試適	口腔内試適と調整の手順	E-3-4)-(1) /各V-4-ス, セ	〃
14	5/22	装着	装着材の種類と特徴	E-3-4)-(1) /各V-4-ス, セ	〃
15	5/25	術後管理	メンテナンスの重要性とその方法およびリコールについて	E-3-4)-(1) ⑩/各V-10-ア	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
16	5/25	術後管理	メインテナンスの重要性と その方法およびリコールに ついて	E-3-4)-(1) ⑩/各V-10- ア	①
17	6/1	インフォーム ドコンセント	インフォーム ドコンセント	E-3-4)-(1) /各必1-ア -a	〃
18	6/1	前処置	前処置	E-3-4)-(1) /各V-2-カ	〃
19	6/8	レジン前装冠	レジン前装冠 の臨床的意義 と適応症およ びレジンと金 属との結合様 式	E-3-4)-(1) ②/各V-4- ア	〃
20	6/8	レジン前装冠	レジン前装冠 の臨床的意義 と適応症およ びレジンと金 属との結合様 式	E-3-4)-(1) ②/各V-4- ア	〃
21	6/15	従来型ブリッ ジ	ブリッジの臨 床的意義と適 応症, 禁忌症 および製作法	E-3-4)-(1) ②/各V-4- イ	〃
22	6/15	従来型ブリッ ジ	ブリッジの臨 床的意義と適 応症, 禁忌症 および製作法	E-3-4)-(1) ②/各V-4- イ	〃
23	6/22	接着ブリッジ	接着ブリッジ の臨床的意義 と適応症およ び接着技法と その歴史	E-3-4)-(1) ②/各V-10- ア, イ	〃
24	6/22	接着ブリッジ	接着ブリッジ の臨床的意義 と適応症およ び接着技法と その歴史	E-3-4)-(1) ②/各V-10- ア, イ	〃
25	6/29	支台築造	支台築造の臨 床的意義と方 法	E-3-4)-(1) ③/各V-4- エ	〃
26	6/29	支台築造	支台築造の臨 床的意義と方 法	E-3-4)-(1) ③/各V-4- エ	〃
27	7/6	高齢者・要介 護者のクラウ ンブリッジ補 綴	高齢者・要介 護者における クラウンブ リッジ補綴	E-4-3)-(2)③ ⑥⑧/各VI -18-ウ, エ, オ	〃
28	7/6	高齢者・要介 護者のクラウ ンブリッジ補 綴	高齢者・要介 護者における クラウンブ リッジ補綴	E-4-3)-(2)③ ⑥⑧/各VI -18-ウ, エ, オ	〃
29	7/13	装着後に発生 する問題とそ の対応	装着後に発生 する問題点と その解決法に ついて	E-3-4)-(1) ⑮/各V -10-ウ～カ	〃
30	7/13	まとめ	まとめ	E-3-4)-(1) ①～⑮/各 V-4-ア～ソ	〃

## 冠橋義歯補綴学実習（前期・1単位）

科目責任者：関根 秀志（イン・教授）

科目担当者：①関根 秀志（イン）、②清野 晃孝（臨床）、  
③小野崎 裕（非常勤）、④加藤 崇（非常勤）、  
⑤白井やよい（非常勤）、⑥菊池 利也（非常勤）

### 1. 科目の概要

講義で学んだ知識を基に、クラウン・ブリッジを実際に自分で製作し、支台歯形成、印象採得、咬合採得、作業模型の製作、蝟型形成、埋没、レジン重合、研磨といった各製作過程における技術的な要点および生体に調和した補綴装置の要件について学ぶ。また、実際に制作に使用する器具の特徴や性質などについても学ぶ。

### 2. 一般目標

歯質欠損や少数歯欠損による咬合・咀嚼障害を回復できるようにするために、クラウン・ブリッジを製作、装着する技術と知識を修得する。

### 3. 到達目標

- 1) 全部金属冠や前装冠の支台歯形成をする。
- 2) シリコン印象材により支台歯の精密印象を採得する。
- 3) 狂いのない作業模型を製作する。
- 4) 歯型上で精度の高い蝟型形成を行う。
- 5) 蝟型を変形させずに埋没する。
- 6) 鋳造欠陥を生じさせずに鋳造を行う。
- 7) 前装用レジンで天然歯の色調と形態を再現する。
- 8) 歯冠補綴物を口腔内装着可能なまで滑沢に研磨する。

### 4. 履修の進め方

マネキンおよび歯列模型を用いてクラウン・ブリッジを製作する。その各ステップで使用する器械や材料の扱い方に習熟し、緻密で正確な技工操作ができる技術を磨くとともに知識を修得する。

### 5. 履修の準備（参考書）

次回行う実習内容を実習書で予習し、視覚素材として参考書を活用する。毎回行う小テストで、間違った問題等を再度学習する。

### 6. 評価方法

定期試験および適宜試験で評価する。

### 7. 教本

教科書：「冠橋義歯学模型実習マニュアル」（講座作成）

参考書：「クラウンブリッジテクニック」（医歯薬出版）

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	4/6	オリエンテーション・下顎白歯部ブリッジ	実習の進め方、器具および材料の扱い方支台歯形成	E-3-4)-(1) ④/各V-4-ウ	① ⑥
4 5 6	4/13	下顎白歯部ブリッジ	支台歯形成	E-3-4)-(1) ④/各V-4-ウ	〃
7 8 9	4/20	〃	印象採得	E-3-4)-(1) ⑨/各V-4-カ	〃
10 11 12	4/27	〃	作業模型製作	E-3-4)-(1) ⑦/各V-4-キ	〃
13 14 15	5/11	下顎白歯部ブリッジ	作業模型製作	E-3-4)-(1) ⑦/各V-4-キ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
16 17 18	5/18	〃	フェイスボウトランスファー	E-3-4)-(1) ⑪/各V-4-ケ	① ⑥
19 20 21	5/25	〃	蝟型形成	E-3-4)-(1) ⑭/各V-4-コ	〃
22 23 24	6/1	〃	埋没、鋳造	E-3-4)-(1) ⑭/各V-4-サ、シ	〃
25 26 27	6/8	〃	研磨、仕上げ	E-3-4)-(1) ⑭/各V-4-シ	〃
28 29 30	6/15	レジン前装冠	支台歯形成	E-3-4)-(1) ④/各V-4-ウ	〃
31 32 33	6/19	〃	蝟型形成、窓開け、埋没	E-3-4)-(1) ⑭/各V-4-コ、サ	〃
34 35 36	6/22	〃	鋳造、研磨	E-3-4)-(1) ⑭/各V-4-シ	〃
37 38 39	6/29	〃	レジン前装、仕上げ	E-3-4)-(1) ⑭/各V-4-シ	〃
40 41 42	7/6	支台築造	蝟型形成	E-3-4)-(1) ⑭/各V-4-エ	〃
43 44 45	7/13	実習試験	筆記試験、実技試験	E-3-4)-(1) /各V-4-ウ～シ	〃

## 有床義歯補綴学Ⅱ（前期・3単位）

科目責任者：山森 徹雄（有床・教授）

科目担当者：①山森 徹雄（有床）、②清野 晃孝（臨床）、  
③田中みか子（非常勤）

### 1. 科目の概要

有床義歯補綴学Ⅱでは、部分床義歯の製作・装着に至る理論を学ぶ。部分床義歯とは、歯列内の部分的な歯の喪失と、それに伴って生じた歯周組織や歯槽突起の実質欠損の補綴を目的として、残存歯またはインプラントを支台とする有床可撤方式の義歯をいう。少数歯欠損から1歯残存に至るあらゆる欠損の症例に適用され、多様性に富んでいる。したがって、欠損の部位や範囲によって咬合力を支持する様式が多様であり、橋義歯の考え方から、全部床義歯の考え方で種々の対応が要求されることになる。臨床では最も頻度の高い有床義歯である。

### 2. 一般目標

部分欠損患者の健康を維持・増進させるために、部分床義歯の臨床的意義を理解し、部分床義歯を製作・装着するための理論を修得する。

### 3. 到達目標

- 1) 部分床義歯の特徴と臨床的意義を説明する。
- 2) 部分床義歯を構成する要素と支持・維持・把持に対する考え方を説明する。
- 3) 支台装置の種類と特徴、およびその応用法を説明する。
- 4) 義歯床、連結装置の種類と特徴および、その応用を説明する。
- 5) 部分床義歯の設計に対する基本的原則を説明する。
- 6) 部分床義歯製作過程における技工操作とその理論的背景を説明する。
- 7) 部分床義歯装着後のメンテナンスと異常経過に対する処置を説明する。

### 4. 履修の進め方

講義室において、スライド、プリントなどを用い、講義を中心とした学習を行う。

### 5. 履修の準備（参考書）

予習：有床義歯学に関連する基礎科目として、口腔解剖学、口腔生理学、生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容および有床義歯補綴学Ⅰ講義・実習の内容を復習して講義に臨む。(30分)

復習：講義内容を当日中に必ず復習し、講義中に指示のあった箇所および理解が不十分な項目については講義ノート、配布資料、教科書により自己学習を行う。(60分以上)

参考書：日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集 第4版 医歯薬出版 2015

### 6. 評価方法

毎回の小テストで形成的評価を行う。総括的評価は、中間試験（40%）、後期定期試験（50%）および出席状況（10%）により行う。

### 7. 教本

藍 稔 編：スタンダードパーシャルデンチャー補綴学 学建書院 2016

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	部分床義歯の特徴	他の補綴装置に対する部分床義歯の特徴を学ぶ	E-3-4)／必-15-ト	①

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
2	4/10	部分床義歯の臨床的意義	歯科臨床での部分床義歯の意義と役割, 為害作用	E-3-4)／必-15-ト	①
3	4/10	部分床義歯の構成要素	義歯側, 生体側の構成要素を学ぶ	E-3-4)／必-15-ト	〃
4	4/10	部分床義歯の分類	部分床義歯の分類法と欠損型の基本的形態	E-3-4)／必-15-ト	〃
5	4/11	部分床義歯欠損歯列の分類	部分欠損歯列の分類法を学ぶ	E-3-4)／必-15-ト	〃
6	4/11	部分床義歯の支持	部分床義歯の支持に対する考え方を学ぶ	E-3-4)／各V-5-ア	〃
7	4/17	部分床義歯の把持と維持	部分床義歯の把持と維持に対する考え方を学ぶ	E-3-4)／各V-5-ア	〃
8	4/17	部分床義歯の支台装置の分類	部分床義歯の支台装置の分類を学ぶ	E-3-4)／各V-5-ア	〃
9	4/18	支台装置1. クラスプ1)	クラスプの構造・分類について学ぶ	E-3-4)／各V-5-ア	〃
10	4/18	支台装置2. クラスプ2)	各種クラスプの特徴と適応症を学ぶ	E-3-4)／各V-5-ア	〃
11	4/24	支台装置3. アタッチメント1)	アタッチメントの種類と特徴を学ぶ	E-3-4)／各V-5-ア	〃
12	4/24	支台装置4. アタッチメント2)	各種アタッチメントの適応症を学ぶ	E-3-4)／各V-5-ア	〃
13	4/24	支台歯の評価と選択基準	支台歯の評価, 支台歯の選択基準を学ぶ	E-3-4)／各V-5-ア	②
14	4/24	義歯床	義歯床の設定基準, 種類と特徴を学ぶ	E-3-4)／各V-5-ア	〃
15	4/25	連結装置1.	上顎の連結装置の種類と特徴を学ぶ	E-3-4)／各V-5-ア	①
16	4/25	連結装置2.	下顎の連結装置の種類と特徴を学ぶ	E-3-4)／各V-5-ア	〃
17	5/8	診察・検査・診断	診察・検査項目と診断基準を学ぶ	E-3-4)／各V-2-ア〜ウ	〃
18	5/8	診察・検査・診断	診察・検査項目と診断基準を学ぶ	E-3-4)／各V-2-ア〜ウ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	5/9	治療計画と設計	治療計画の立案と部分床義歯の設計を学ぶ	E-3-4) / 各 V-2-エ, オ	①
20	5/9	治療計画と設計	治療計画の立案と部分床義歯の設計を学ぶ	E-3-4) / 各 V-2-エ, オ	〃
21	5/15	前処置1.	外科的前処置, 矯正的前処置, 保存的前処置	E-3-4) / 各 V-2-カ	〃
22	5/15	前処置2.	補綴的前処置を学ぶ	E-3-4) / 各 V-2-カ	〃
23	5/16	部分床義歯の印象	印象時の留意事項を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-イ	〃
24	5/16	部分床義歯の印象	印象時の留意事項を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-イ	〃
25	5/22	部分床義歯の作業用模型	作業用模型の所要条件, 製作法を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-ウ	〃
26	5/22	咬合採得1.	咬合支持の違いによる顎間関係の記録法を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-ク	〃
27	5/23	中間試験	総括的評価の一部として中間試験を受ける		①
28	5/23	咬合採得2.	顔弓記録と下顎運動の記録法	E-3-4) / 各 V-5-ク	〃
29	5/29	人工歯の選択	人工歯の選択基準を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-ク	〃
30	5/29	人工歯排列	人工歯排列の原則を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-ク～コ	〃
31	5/29	蠟義歯の口腔内試適	蠟義歯試適時の検査事項を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-ク～コ	②
32	5/30	埋没	蠟義歯の埋没法を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-サ	③
33	5/30	重合, 研磨	義歯床用レジンの重合法, 研磨法を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-サ	〃
34	6/6	完成義歯の装着	完成義歯の装着法を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-シ～セ	①
35	6/6	完成義歯の装着	完成義歯の装着法を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-シ～セ	〃
36	6/13	義歯装着後の管理	義歯装着後のホームケア, 定期検査を学ぶ	E-3-4) / 各 V-10-ア, イ, キ	〃
37	6/13	リラインとリベース	部分床義歯のリライン, リベースを学ぶ	E-3-4) / 各 V-10-カ	〃
38	6/20	装着後の異常と対応	装着後の異常とその対応法を学ぶ	E-3-4) / 各 V-10-ウ～カ	③
39	6/20	装着後の異常と対応	装着後の異常とその対応法を学ぶ	E-3-4) / 各 V-10-ウ～カ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
40	6/27	顎義歯	顎義歯の特徴を学ぶ	E-3-4) / 各 V-9-ア	①
41	6/27	顎義歯	顎義歯の特徴を学ぶ	E-3-4) / 各 V-9-ア	〃
42	7/4	即時義歯・暫間義歯	即時義歯, 暫間義歯の特徴と適応症を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-ア	〃
43	7/4	治療用義歯・移行義歯	治療用義歯, 移行義歯の特徴と適応症を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-ア	〃
44	7/11	金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-キ	〃
45	7/11	金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法を学ぶ	E-3-4) / 各 V-5-キ	〃

## 有床義歯補綴学Ⅱ実習（前期・1単位）

科目責任者：山森 徹雄（有床・教授）

科目担当者：①山森 徹雄（有床）、②田中みか子（非常勤）、  
③浅井 政一（非常勤）、④高玉 典彦（非常勤）、  
⑤海老原寛子（非常勤）、他

### 1. 科目の概要

有床義歯補綴学Ⅱ実習では、有床義歯補綴学Ⅱの講義で学習した理論を、部分床義歯を製作する過程を通して確実なものにするとともに、部分床義歯を製作・装着するための基本的技術を修得する。

### 2. 一般目標

部分欠損患者の健康を維持・増進させるために、部分床義歯を製作・装着する理論の理解度を向上するとともに、その技術を修得する。

### 3. 到達目標

- 1) サベイヤーの使用方法に関する知識を基に、サベイングをする。
- 2) 上顎部分床義歯の設計方法の知識を基に、模型上で設計する。
- 3) ガイドプレーン、レストシートを形成する。
- 4) ワイヤークラスプを屈曲してレスト付き2腕鉤を製作する。
- 5) キャストクラスプを製作する。
- 6) 咬合床を製作し、咬合採得、作業用模型の咬合器装着をする。
- 7) 人工歯の選択と排列の理論に関する知識を基に、人工歯を排列する。
- 8) 部分床義歯のフラスクに埋没、レジンの填入、重合を説明する。
- 9) 金属床義歯のフレームワークの設計、およびワックスアップをする。

### 4. 履修の進め方

部分欠損模型を用いた部分床義歯の製作過程を通して、部分欠損患者を治療するための理論的背景と技術を学習する。実習は中央棟5階の模型実習室において、小人数のグループに分かれてチューターから個別指導を受ける。実習の進行は実習マニュアルに沿って計画的に実施されるので、限られた時間のなかで着実に学習することができる。

### 5. 履修の準備（参考書）

予習：有床義歯学に関連する基礎科目として、口腔解剖学、口腔生理学、生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容および有床義歯学Ⅰ講義・実習、有床義歯学Ⅱ講義の内容を良く理解する。また事前に配布される実習プリント、教科書の関連範囲を熟読して実習に臨む。(60分)

復習：実習内容および実習講義の内容を当日中に必ず復習し、理解が不十分な項目については実習プリント、教科書により自己学習を行う。(30分)

### 6. 評価方法

実習中の口頭試問、レポート等にて形成的評価を行う。総合的評価は、実技試験（30%）、製作物（30%）、筆記試験（20%）、実習毎の小テスト（10%）および出席状況（10%）により行う。

### 7. 教本

五十嵐順正 他編：パーシャルデンチャーテクニク 第5版 医歯薬出版 2012

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/11	上顎模型のサベイングと設計	サベイヤーとその付属品を用い模型をサベイング	E-3-4) / 各 V-5-ア, カ	① ⑤
2	4/18	前処置とワイヤークラスプ	補綴的前処置を実施し、ワイヤークラスプを屈曲	E-3-4) / 各 V-5-キ	〃
3	4/25	前処置とワイヤークラスプ	上顎左側第一小臼歯のワイヤークラスプを屈曲	E-3-4) / 各 V-5-キ	〃
4	5/9	キャストクラスプの製作	耐火模型を製作	E-3-4) / 各 V-5-キ	〃
5	5/16	キャストクラスプの製作	ワックスアップし、埋没、鑄造	E-3-4) / 各 V-5-キ	〃
6	5/23	パラタルバーの製作	用線を屈曲してパラタルバーを製作	E-3-4) / 各 V-5-キ	〃
7	5/30	咬合床の製作と咬合採得	基礎床と咬合堤を製作し、咬合採得を行う。	E-3-4) / 各 V-5-エ, オ	〃
8	6/5	咬合器装着と人工歯排列	咬合床を介して模型を咬合器装着、人工歯を排列	E-3-4) / 各 V-5-ク	〃
9	6/6	歯肉形成	歯肉の形態を形成し、蠟義歯を完成させる。	E-3-4) / 各 V-5-ケ	〃
10	6/13	実技試験	蠟義歯を提出する。実技試験を受ける。		〃
11	6/20	下顎模型のサベイングと設計	下顎模型のサベイング、設計を行う。	E-3-4) / 各 V-5-カ	〃
12	6/26	耐火模型の製作	ブロックアウトとリリーフ、耐火模型を製作	E-3-4) / 各 V-5-キ	〃
13	6/27	フレームワークワックスアップ	耐火模型上でフレームワークのワックスアップ	E-3-4) / 各 V-5-キ	〃
14	7/4	フレームワークワックスアップ	耐火模型上でフレームワークのワックスアップ	E-3-4) / 各 V-5-キ	〃
15	7/11	ワックスパターンの完成、提出	ワックスパターンを完成、筆記試験を受ける	E-3-4) / 各 V-5-キ	〃

## 口腔インプラント学（後期・1単位）

科目責任者：関根 秀志（イン・教授）

科目担当者：①関根 秀志（イン）、②小宮山彌太郎（客員）、  
③伊東 博司（病理）、④宇佐美晶信（解剖）、  
⑤岡田 英俊（材料）、⑥川鍋 仁（矯正）

### 1. 科目の概要

口腔インプラントを用いた欠損補綴治療は、予知性のある治療法の一つとして広く実践されている。口腔インプラント治療を成功させるためには、口腔インプラントの特性と臨床的意義を十分に理解し、適切な治療計画を立案することが重要である。また口腔インプラント治療には、種々の前処置、顎骨へのインプラント体埋入、上部構造の製作・装着、メンテナンスなど多様な処置が含まれるため、広範な基礎的、臨床的知識が求められる。それぞれの系統科目で学んだ知識とインプラント治療の結びつきを理解することが口腔インプラント学を修得する近道である。

### 2. 一般目標

欠損歯列患者の機能と形態を回復し、治療効果を長期に維持するために、口腔インプラント治療のための理論を習得する。

### 3. 到達目標

- 1) 口腔インプラント治療を説明できる。
- 2) 治療計画を立案できる。
- 3) 治療の手順および手技を説明できる。
- 4) インプラントの失敗の原因と対処法について説明できる。

### 4. 履修の進め方

文書視覚媒体と投影視覚媒体を用いて講義する。

### 5. 履修の準備（参考書）

予習：指定された教科書を熟読し、予備知識を得る。  
(60分)

復習：小テストによる形成的評価で指摘された点を、教科書、講義ノートを確認する。(30分)

### 6. 評価方法

定期試験および適宜試験で評価する。

### 7. 教本

赤川安正、松浦正朗、矢谷博文 編集「よくわかる 口腔インプラント学 第2版」医歯薬出版

### 8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/8	口腔インプラント学総論	インプラント治療の歴史と種類、臨床的意義と治療過程	E-3/各V-8	①
2	〃	危険要因	口腔インプラントに対する危険要因	〃	〃
3	〃	検査・診断	口腔インプラントのための診察、検査、診断	〃	〃
4	9/15	治療計画の立案	治療計画立案の原則とチーム医療	A-7/各V-8	②
5	9/15	手術基本手技(1)	基本的な手術術式と手技	E-3/各V-8	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	〃	手術基本手技(2)	骨造生術、軟組織形成術	〃	②
7	9/22	基礎学(1)	臨床病理：オッセオインテグレーションの概念	C-4/各V-8	③
8	〃	基礎学(3)	口腔インプラントのための臨床解剖学	E-1/各V-8	④
9	〃	基礎学(2)	口腔インプラントのための生体材料学	D-1/各V-8	⑤
10	9/29	上部構造(1)	上部構造の種類と特徴	E-3/各V-8	①
11	〃	上部構造(2)	上部構造装着までの基本的術式	〃	〃
12	〃	メンテナンス(1)	術後管理とインプラント周囲病変	〃	〃
13	10/6	メンテナンス(2)	トラブルへの対処	〃	〃
14	〃	口腔インプラントの応用(1)	矯正歯科治療への応用	〃	⑥
15	〃	口腔インプラントの応用(2)	超高齢社会におけるインプラント治療	〃	①

## 口腔インプラント学実習（後期・1単位）

科目責任者：関根 秀志（イン・教授）

科目担当者：①関根 秀志（イン）、②小宮山彌太郎（客員）、  
③金成 雅彦（非常勤）、④林 美穂（非常勤）、  
⑤佐藤 篤（非常勤）

### 1. 科目の概要

口腔インプラントを用いた欠損補綴治療は、予知性のある治療法の一つとして広く実践されている。口腔インプラント治療を成功させるためには、口腔インプラントの特性と臨床的意義を十分に理解し、適切な治療計画を立案することが重要である。また口腔インプラント治療には、種々の前処置、顎骨へのインプラント体埋入、上部構造の製作・装着、メンテナンスなど多様な処置が含まれるため、広範な基礎的、臨床的知識が求められる。それぞれの系統科目で学んだ知識とインプラント治療の結びつきを理解することが口腔インプラント学を修得する近道である。

### 2. 一般目標

インプラント手技実習を実施することにより、インプラント学の基礎知識をさらに深く修得する。

### 3. 到達目標

- 1) インプラントの画像所見を説明できる。
- 2) インプラントの治療計画を立案できる。
- 3) インプラント埋入に必要な基本的知識を説明できる。
- 4) インプラント上部構造製作に必要な基礎知識を説明できる。

### 4. 履修の進め方

提供された資料や顎模型を用いた実習、演習を行う。

### 5. 履修の準備（参考書）

予習：配布される実習指針を熟読し、実習内容を理解する。（60分）

復習：実習にて実施した手技の目的を、教科書、講義資料により確認する。（30分）

### 6. 評価方法

実習中に口頭試問、製作物などの形成的評価を行う。実習時間内に実施する試験により総括的評価を行う。

### 7. 教本

公益社団法人日本口腔インプラント学会編 口腔インプラント学実習書 永末書店

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13 14 15	11/17	外科実習(1)	切開, フラップ形成, 術野の確保	E-3/各V-8	①
16 17 18	11/24	外科実習(2)	インプラント埋入窩形成	〃	〃
19 20 21	12/1	外科実習(3)	インプラント埋入, 縫合	〃	②
22 23 24	12/8	補綴実習(1)	アバットメント・セレクション	〃	③
25 26 27	12/15	補綴実習(2)	印象採得: クローズドトレイ法とオープントレイ法	〃	④
28 29 30	12/22	実習総括	実習試験, 問題解説とフィードバック	〃	①

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	10/13	診断学実習(1)	トレースとインプラントポジショニング: 第一症例	E-3/各V-8	①
4 5 6	10/20	診断学実習(2)	トレースとインプラントポジショニング: 第二症例, 総合討議	〃	〃
7 8 9	10/27	シミュレーション実習(1)	インプラント埋入計画シミュレーション: 第一症例	〃	〃
10 11 12	11/10	シミュレーション実習(2)	インプラント埋入計画シミュレーション: 第二症例	〃	〃

## 口腔外科学Ⅱ (通年・2単位)

科目責任者：川原 一郎 (外科・講師)

科目担当者：①大野 敬 (外科), ②金 秀樹 (外科),  
③川原 一郎 (外科), ④御代田 駿 (外科),  
⑤小嶋 忠之 (外科)

### 1. 科目の概要

口腔外科学とは顎・口腔領域(口唇, 頬粘膜, 歯肉, 口底, 舌, 口蓋などの軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯などの硬組織および隣接する顎関節, 唾液腺, 所属リンパ節など)に生じる各種疾患(先天異常, 後天異常, 損傷, 炎症, 嚢胞, 腫瘍, 血液疾患, 顎関節疾患, 唾液腺疾患, 口腔粘膜疾患, 神経疾患など)を正しく診断し, 外科療法を主体とした適切な治療を行うとともに, 失われた形態と口腔機能の回復を図るための理論と技術を研究する学問であり, 臨床歯科医学のなかで特に広範囲な診療科目として体系づけられている。したがって, 口腔および口腔に関連する組織・器官の正常な形態と機能を理解するとともに, 技能を獲得するための基礎と臨床を含めた歯科医学と隣接医学の幅広い知識が必要である。

### 2. 一般目標

口腔外科学Ⅱでは, 顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために, ①抜歯術, 小手術学の知識, ②嚢胞および類似疾患, ③唾液腺疾患, ④腫瘍および類似疾患, ⑤唾液腺腫瘍の基礎知識および臨床的な知識を習得する。

### 3. 到達目標

- 1) 抜歯術および小手術の種類を概説し, 適応症, 禁忌症, 術式, 偶発症を説明する。
- 2) 嚢胞および類似疾患の種類と症状を概説し, 検査法と治療法を説明する。
- 3) 唾液腺疾患の種類, 特徴, 症状を概説し, 診断と治療法を説明する。
- 4) 腫瘍および類似疾患の種類と特徴, 症状を概説し, 診断と治療法を説明する。
- 5) 唾液腺腫瘍の種類と特徴, 症状を概説し, 診断と治療法を説明する。

### 4. 履修の進め方

文書視覚媒体と投影視覚媒体を用いて履修する。

### 5. 履修の準備 (参考書)

下野正基, 野間弘康, 山根源之 編集 「口腔外科・病理診断アトラス」 医歯薬出版 2006年

### 6. 評価方法

定期試験で評価する。

### 7. 教本

野間弘康, 瀬戸皖一 編集 「標準口腔外科学」 第4版 医学書院 2015

白砂兼光, 古郷幹彦 編集 「口腔外科学」 第3版 医歯薬出版 2010

### 8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	抜歯術および小手術学(1) 抜歯術1	抜歯の適応症, 禁忌症	E-1-4) / 必15-ス-a 総X-5-カ	②
2	4/17	抜歯術および小手術学(2) 抜歯術2	抜歯の術式	E-1-4) / 必15-ス 総X-5-ア~エ, カ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/24	抜歯術および小手術学(3) 抜歯術3	抜歯の偶発症	E-1-4) / 必15-ス 総X-5-カ	②
4	5/8	抜歯術および小手術学(4) 小手術学1	歯根端切除術, 歯槽骨整形術, 歯の移植術	E-1-4) / 総X-5-ア~エ, キ, ク	〃
5	5/15	抜歯術および小手術学(5) 小手術学2	舌および上唇小帯形成術, 浮動粘膜切除術	E-1-4) / 総X-5-ア~エ, キ	〃
6	5/22	嚢胞(1) 総論	嚢胞の定義, 分類, 症状, 診断, 治療	E-2-4) 4) / 必14-1	①
7	5/29	嚢胞(2) 各論1	顎骨に発生する嚢胞1	E-2-4) / 各IV-10-ア~サ	④
8	6/5	嚢胞(3) 各論2	顎骨に発生する嚢胞2	E-2-4) / 各IV-10-ア~サ	〃
9	6/12	嚢胞(4) 各論3	軟組織に発生する嚢胞1	E-2-4) / 各IV-4-ア~ク	⑤
10	6/19	嚢胞(5) 各論4	軟組織に発生する嚢胞2	E-2-4) / 各IV-4-ア~ク	〃
11	6/26	嚢胞(6) まとめ	嚢胞のまとめ	E-2-4) / 各IV-4-ア~ク 各IV-10-ア~サ	③
12	7/3	唾液腺疾患(1) 総論	唾液腺の解剖および機能, 唾液腺疾患の分類	E-2-4) / 各IV-12-ア~テ	〃
13	7/3	唾液腺疾患(2) 各論1	形態および機能異常, 炎症	E-2-4) / 各IV-12-ア~ク, サ, テ	〃
14	7/3	唾液腺疾患(3) 各論2	異物, 嚢胞, 腫瘍	E-2-4) / 各IV-12-シ~テ	〃
15	7/10	唾液腺疾患(4) 各論3	全身疾患に関連する病変	E-2-4) / 各IV-12-ク, ケ, テ	〃
16	9/4	腫瘍および類似疾患(1) 総論	腫瘍の定義, 分類, 症状, 診断, 治療	E-2-4) / 各IV-5-ア~チ 各IV-11-ア~コ	①
17	9/11	腫瘍および類似疾患(2) 各論1	良性腫瘍1 歯原性腫瘍1	E-2-4) / 各IV-5-ア 各IV-11-ア	②
18	9/25	腫瘍および類似疾患(3) 各論2	良性腫瘍2 歯原性腫瘍2	E-2-4) / 各IV-5-ア 各IV-11-ア	〃
19	10/2	腫瘍および類似疾患(4) 各論3	良性腫瘍3 非歯原性腫瘍	E-2-4) / 各IV-5-イ 各IV-11-ウ	④
20	10/16	腫瘍および類似疾患(5) 各論4	良性腫瘍4 腫瘍類似疾患	E-2-4) / 各IV-11-オ~ケ	⑤

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
21	10/23	腫瘍および類似疾患(6)各論5	前癌病変と前癌状態	E-2-4) / 各IV-5-セ, タ	②
22	10/30	腫瘍および類似疾患(7)各論6	悪性腫瘍1 口腔癌の分類	E-2-4) / 各IV-5-ウ~ケ	〃
23	11/6	腫瘍および類似疾患(8)各論7	悪性腫瘍2 口腔癌の診断	E-2-4) / 各IV-5-ウ~ケ, タ, チ	〃
24	11/13	腫瘍および類似疾患(9)各論8	悪性腫瘍3 口腔癌の治療	E-2-4) / 各IV-5-ウ~ケ, タ, チ	〃
25	11/20	腫瘍および類似疾患(10)各論9	悪性腫瘍4 肉腫	E-2-4) / 各IV-5-コ~ス, タ	③
26	11/27	腫瘍および類似疾患(11)各論10	悪性腫瘍5 悪性黒色腫 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫	E-2-4) / 各IV-5-コ~ス, タ	〃
27	12/4	腫瘍および類似疾患(12)各論11	唾液腺腫瘍1 良性腫瘍	E-2-4) / 各IV-12-タ, テ	〃
28	12/11	腫瘍および類似疾患(13)各論12	唾液腺腫瘍2 悪性腫瘍	E-2-4) / 各IV-12-チ, テ	〃
29	12/18	腫瘍および類似疾患(14)まとめ1	腫瘍のまとめ1	E-2-4) / 各IV-5-ア~チ 各IV-11-ア~コ	〃
30	12/19	腫瘍および類似疾患(15)まとめ2	腫瘍のまとめ2	E-2-4) / 各IV-5-ア~チ 各IV-11-ア~コ	〃

## 口腔外科学Ⅲ（後期・1単位）

科目責任者：高田 訓（外科・教授）

科目担当者：①高田 訓（外科）、②菅野 勝也（外科）、  
③宮島 久（非常勤）、④須賀賢一郎（非常勤）

### 1. 科目の概要

顎口腔領域に生じる様々な疾患は、いくつかの各論に分類されている。口腔外科学ⅠおよびⅡと同様に、口腔外科学Ⅲにおいても、顎口腔領域の疾患を一つ一つ履修する。特に先天異常や発育異常、顎関節疾患、神経疾患について診断と治療に必要な最低限の知識を教本から修得する授業である。

### 2. 一般目標

先天異常や発育異常、顎関節疾患、神経疾患の概要を説明し、診断に必要な検査、治療方針、治療法を患者さんに説明できるようになるために、各疾患の定義、特徴、診断に必要な検査、治療方針と治療法の種類を理解する。

### 3. 到達目標

- 1) 先天異常・発育異常の疾患を分類し、それぞれの定義と概要を説明できる。
- 2) 先天異常・発育異常の診断に必要な検査を理解し、確定診断できる。
- 3) 先天異常・発育異常の治療法を理解し、治療方針を立案できる。
- 4) 顎関節疾患を分類し、それぞれの定義と概要を説明できる。
- 5) 顎関節疾患の診断に必要な検査を理解し、確定診断できる。
- 6) 顎関節疾患の治療法を理解し、治療方針を立案できる。
- 7) 神経疾患を分類し、それぞれの定義と概要を説明できる。
- 8) 神経疾患の診断に必要な検査を理解し、確定診断できる。
- 9) 神経疾患の治療法を理解し、治療方針を立案できる。

### 4. 履修の進め方

歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおいて必要とされる口腔外科領域に生じる疾患の診査、診断能力を養い、診療参加型臨床実習で実践できるスキルを得るために、標準口腔外科学第4版の教本を主体に講義形式で授業をすすめる。

### 5. 履修の準備（参考書）

教本に示した口腔外科学第3版は、標準口腔外科学第4版の補足資料として予習・復習に活用して頂きたい。この教本には、特に口腔外科領域における様々な術式が図説や写真とともに詳しく記されている。また、口腔内科学、口腔外科学Ⅰ・Ⅱは直接関連した科目なので、これらの科目は常にフィードバックしておく必要がある。当然、口腔解剖、口腔組織、口腔生化、口腔生理、歯科薬理、口腔病理、口腔感染免疫などの基礎系科目の知識がなくては口腔外科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を得ることはできない。

### 6. 評価方法

定期試験で評価する。

### 7. 教本

標準口腔外科学 第4版 医学書院 2015

口腔外科学 第3版 医歯薬出版 2012

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/8	先天異常-1	口腔外科学Ⅲ概要 先天異常・発育異常の総論	E-2/総VI-11, 各II, IV	① ②
2	9/15	先天異常-2	硬組織・軟組織の異常	E-2/総VI-11, 各II, IV	〃
3	9/22	先天異常-3	口唇裂・口蓋裂	E-2/総VI-11, 各II, IV	① ② ④
4	9/29	発育異常-1	口腔に異常を示す症候群	E-2/総VI-11, 各II, IV	〃
5	10/6	発育異常-2	顎変形症	E-2/総VI-11, 各II, IV	〃
6	10/13	顎関節疾患-1	顎関節の構造と疾患総論	E-2/総VI-11, 各IV	① ② ③
7	10/20	顎関節疾患-2	発育異常・外傷・炎症 代謝性・退行性疾患	E-2/総VI-11, 各IV	〃
8	10/27	顎関節疾患-3	腫瘍性・顎関節強直症	E-2/総VI-11, 各IV	〃
9	11/10	顎関節疾患-4	顎関節症の概念と診断	E-2/総VI-11, 各IV	〃
10	11/17	顎関節疾患-5	顎関節症の治療	E-2/総VI-11, 各IV	〃
11	11/24	神経疾患-1	末梢神経の解剖と疾患総論	E-2/各IV	①
12	12/1	神経疾患-2	疼痛性疾患	E-2/各IV	〃
13	12/8	神経疾患-3	麻痺性疾患	E-2/各IV	〃
14	12/15	神経疾患-4	腫瘍性疾患 歯科口腔心身症	E-2/各IV	〃
15	12/22	まとめ	先天異常・発育異常 顎関節疾患・神経疾患	E-2/総VI-11, 各II, IV	〃

## 歯科麻酔学 (通年・4単位)

科目責任者：山崎 信也 (麻酔・教授)

科目担当者：①山崎 信也 (麻酔)，②川合 宏仁 (生理)

### 1. 科目の概要

歯科麻酔学は、医科の麻酔学と共通する学問であり、医療、処置、手術、侵襲などにおける種々なストレスから生体を防御することを主とした学問である。その範囲は、呼吸循環管理、局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔法、術前術後管理、救急処置、心肺蘇生法などにおよび、さらに、歯科治療で問題となる高血圧、糖尿病、心疾患など、種々の合併疾患患者の管理や、疼痛管理としてのペインクリニックも網羅する。また、歯科麻酔学は、基礎医学としての解剖学、薬理学、生理学、生化学や、臨床医学としての外科学、内科学、循環器科学、呼吸器科学など、多くの学問を含むことで広範な知識が要求され、臨床医学の中で最も応用範囲の広い学科目である。

### 2. 一般目標

広く基礎医学と臨床医学を理解することで、的確に患者の全身状態を評価し、その上で安全で適切な患者の生体管理を実践するために必須である歯科麻酔学の知識を修得する。

### 3. 到達目標

- 1) 歯科麻酔学の概念、歴史、特徴、法的問題について説明する。
- 2) 全身管理に必要な呼吸、循環、神経、代謝、内分泌生理について説明する。
- 3) 術前管理や全身状態評価、患者管理上、問題となる疾患について説明する。
- 4) 局所麻酔、精神鎮静、全身麻酔、日帰り全身麻酔について説明する。
- 5) 心身障害者、小児、障害者、高齢者の麻酔について説明する。
- 6) 周術期管理について説明する。
- 7) 痛みの治療やペインクリニックについて説明する。
- 8) 歯科治療時の全身的偶発症、および救急救命処置について説明する。

### 4. 履修の進め方

- 1) 板書とプリントを主体とし、実演、DVD、スライドを適宜併用する。
- 2) 各自ノートを作り板書を書き込むことを基本とする。
- 3) 口頭での重要点はプリントや教科書への書き込み、マーキングを行う。

### 5. 履修の準備 (参考書)

山崎信也、川合宏仁ほか、歯科麻酔学第7版、医歯薬出版

### 6. 評価方法

定期試験および適宜試験で評価する。

### 7. 教本

山崎信也、川合宏仁、スタンダード全身管理・歯科麻酔学、学建書院

### 8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/6	歯科麻酔学概論	麻酔の概念/歴史/種類 歯科麻酔の特徴 歯科麻酔の法的問題	E-1-3)-(1)/ 必-17-ア	① ②
2	4/7	呼吸生理(1)	呼吸器系の構造 呼吸の調節	C-2-3)-(7)/ 総Ⅲ-2-ウ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/7	呼吸生理(2)	換気、ガス交換 換気に影響する因子	C-2-3)-(7)/ 総Ⅲ-2-ウ	① ②
4	4/11	呼吸生理(3)	酸素の運搬 二酸化炭素の運搬	C-2-3)-(7)/ 総Ⅲ-2-ウ	〃
5	4/14	呼吸生理(4)	酸塩基平衡	C-2-3)-(7)/ 総Ⅲ-2-ウ	〃
6	4/14	呼吸生理(5)	呼吸機能検査	C-2-3)-(7)/ 総Ⅲ-2-ウ	〃
7	4/21	循環生理(1)	心臓	C-2-3)-(3)/ 総Ⅲ-2-エ	〃
8	4/21	循環生理(2)	心臓	C-2-3)-(3)/ 総Ⅲ-2-エ	〃
9	4/28	循環生理(3)	循環の調節	C-2-3)-(3)/ 総Ⅲ-2-エ	〃
10	4/28	循環生理(4)	血管に対する調節	C-2-3)-(3)/ 総Ⅲ-2-エ	〃
11	5/12	循環生理(5)	体液	C-2-3)-(3)/ 総Ⅲ-2-エ	〃
12	5/12	循環生理(6)	重要臓器の血流分布と自己調節能	C-2-3)-(3)/ 総Ⅲ-2-エ	〃
13	5/19	代謝・内分泌生理	代謝、内分泌	C-2-3)-(8)/ 総Ⅲ-2-ケ	〃
14	5/19	術前管理(1)	術前診察、臨床検査	E-1-3)-(4) ③/ 総Ⅸ、X-4	〃
15	5/26	術前管理(2)	手術危険度 管理方法の選択	E-1-3)-(4) ③/ 総Ⅸ、X-4	〃
16	5/26	術前管理(3)	術前処置、麻酔前投薬	E-1-3)-(4) ③/ 総Ⅸ、X-4	〃
17	6/2	前期中間試験	前期中間試験		〃
18	6/2	全身疾患(1)	循環器系疾患	E-4-6)/ 必-15-ホ	〃
19	6/9	全身疾患(2)	循環器系疾患	E-4-6)/ 必-15-ホ	〃
20	6/9	全身疾患(3)	呼吸器系疾患	E-4-6)/ 必-15-ホ	〃
21	6/16	全身疾患(4)	その他の疾患	E-4-6)/ 必-15-ホ	〃
22	6/16	全身疾患(5)	その他の疾患	E-4-6)/ 必-15-ホ	〃
23	6/23	全身麻酔法(1)	全身麻酔の理論	E-1-3)-(4) ①②/ 総Ⅹ-6-ウ	〃
24	6/23	全身麻酔法(2)	吸入麻酔法、麻酔深度	E-1-3)-(4) ①②/ 総Ⅹ-6-ウ	〃
25	6/30	全身麻酔法(3)	吸入麻酔薬の種類	E-1-3)-(4) ①②/ 総Ⅹ-6-ウ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
26	6/30	全身麻酔法(4)	麻酔器と麻酔法 必要な器具	E-1-3)-(4) ①②/ 総X-6-ウ	① ②
27	7/7	全身麻酔法(5)	静脈麻酔法 特殊な麻酔法	E-1-3)-(4) ①②/ 総X-6-ウ	〃
28	7/7	全身麻酔法(6)	筋弛緩薬 口腔外科手術 の麻酔	E-1-3)-(4) ①②/ 総X-6-ウ	〃
29	7/14	術中管理(1)	呼吸、循環管理 輸液、輸血モ ニター、ショック	E-1-3)-(1)/ 総X-6-ク	〃
30	7/14	術中管理(2)	術後管理 術後合併症 疼痛管理	E-1-3)-(1)/ 総X-6-ク	〃
31	9/5	日帰り全身麻酔(1)	症例の選択, 術前管理 麻酔前投薬	E-1-3)-(4) ①②/ 総X-6-ウ	〃
32	9/5	日帰り全身麻酔(2)	麻酔薬や麻酔 補助薬 麻酔法、術後 管理	E-1-3)-(4) ①②/ 総X-6-ウ	〃
33	9/12	障害者の麻酔(1)	障害者の特徴 術前管理	E-4-4)/ 必-14, 総X-2	〃
34	9/12	障害者の麻酔(2)	術中管理, 術後管理 疾患各論	E-4-4)/ 必-14, 総X-2	〃
35	9/19	小児の麻酔	小児の特徴, 術前 麻酔、術後管 理	E-4-2)3)/ 総X-2	〃
36	9/19	高齢者の麻酔	高齢者の特徴, 術前 麻酔、術後管 理	E-4-2)3)/ 総X-2	〃
37	9/26	精神鎮静法(1)	概念	E-1-3)-(2)/ 総X-6-ケ	〃
38	9/26	精神鎮静法(2)	使用薬剤	E-1-3)-(2)/ 総X-6-ケ	〃
39	10/3	精神鎮静法(3)	使用薬剤	E-1-3)-(2)/ 総X-6-ケ	〃
40	10/3	精神鎮静法(4)	精神鎮静法の 実際	E-1-3)-(2)/ 総X-6-ケ	〃
41	10/10	局所麻酔法(1)	概要、構造、 種類	E-1-3)-(3)/ 総X-6-アイ	〃
42	10/10	局所麻酔法(2)	作用機序	E-1-3)-(3)/ 総X-6-アイ	〃
43	10/17	局所麻酔法(3)	全身への影響 剤形、器材	E-1-3)-(3)/ 総X-6-アイ	〃
44	10/17	局所麻酔法(4)	解剖、局所麻 酔法	E-1-3)-(3)/ 総X-6-アイ	〃
45	10/24	ペインクリ ニック(1)	痛覚伝導路 痛みの分類	C-4-6), E-4-5) E-2-4)-(8)/ 総X-6-シ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
46	10/24	ペインクリ ニック(1)	代表的な疼痛 疾患 痙攣	C-4-6), E-4-5)E-2- 4)-(8)/ 総X-6-シ	① ②
47	10/31	後期中間試験	後期中間試験		〃
48	10/31	全身的偶発症(1)	バイタルサイ ン偶発症の対 応	E-1-5)-① ②③/ 総X-4-エ 6-コ	〃
49	11/7	全身的偶発症(2)	神経性ショッ ク過換気症候 群	E-1-5)-① ②③/ 総X-4-エ 6-コ	〃
50	11/7	全身的偶発症(3)	高血圧緊急症 アナフィラキ シー	E-1-5)-① ②③/ 総X-4-エ 6-コ	〃
51	11/14	全身的偶発症(4)	局所麻酔中毒 メトヘモグロ ビン血症	E-1-5)-① ②③/ 総X-4-エ 6-コ	〃
52	11/14	全身的偶発症(5)	虚血性疾患 脳卒中	E-1-5)-① ②③/ 総X-4-エ 6-コ	〃
53	11/21	全身的偶発症(6)	循環器疾患	E-1-5)-① ②③/ 総X-4-エ 6-コ	〃
54	11/21	全身的偶発症(7)	循環器疾患	E-1-5)-① ②③/ 総X-4-エ 6-コ	〃
55	11/28	全身的偶発症(8)	呼吸器疾患	E-1-5)-① ②③/ 総X-4-エ 6-コ	〃
56	11/28	全身的偶発症(9)	呼吸器疾患	E-1-5)-① ②③/ 総X-4-エ 6-コ	〃
57	12/5	全身的偶発症(10)	肝、腎疾患	E-1-5)-① ②③/ 総X-4-エ 6-コ	〃
58	12/5	全身的偶発症(11)	代謝、内分泌 疾患	E-1-5)-① ②③/ 総X-4-エ 6-コ	〃
59	12/12	救急救命処置(1)	救急蘇生法の 目的一次救命 処置窒息の解 除	E-1-5)-③ ④⑤/ 総X-3	〃
60	12/12	救急救命処置(2)	二次救命処置 蘇生後のサ ポート	E-1-5)-③ ④⑤/ 総X-3	〃

## 歯科矯正学 (通年・3単位)

科目責任者：福井 和徳 (矯正・教授)

科目担当者：①福井 和徳 (矯正), ②板橋 仁 (矯正),  
③竜 立雄 (矯正), ④川鍋 仁 (矯正)

### 1. 科目の概要

歯科矯正学は、歯、歯周組織、顎、さらにそれらを包含する顔の正常な成長発育を研究し、それら諸機能の不正による成長発育から引き起こされる不正咬合や顎の異常な関係を改善して、顎口腔系の正しい機能の獲得と同時に顔貌の改善を図り、社会的・心理的に個人の福祉に寄与し、延いては不正咬合の発現を予防するための研究と技術とを含む歯科の一分科である。

### 2. 一般目標

ディプロマ・ポリシーの知識と診断能力を身につけるため、矯正歯科治療に係わる総論および診断学、治療学を理解するために歯科矯正学の意義、成長発育、正常咬合と不正咬合の基礎を知り、矯正歯科治療における生体反応、診察、検査、診断、矯正装置、矯正力と固定、材料と器械・器具、不正咬合の治療について学習する。

### 3. 到達目標

- 1) 不正咬合による障害を説明する。
- 2) 身体と顎顔面の成長発育を説明する。
- 3) 正常咬合の概念と不正咬合の分類を記述する。
- 4) 統計学的評価について述べる。
- 5) ツイード分析から抜歯の必要性を推論する。
- 6) 総合診断の進め方を具体的に述べる。
- 7) 矯正力と顎整形力、固定法について説明する。
- 8) 線材料の特徴を比較し歯の移動と関連づける。
- 9) 矯正装置の構造を具体的に述べる。
- 10) 不正咬合の矯正治療とその偶発症、および保定について説明する。

### 4. 履修の進め方

予定されている授業項目および課題について配布プリント、板書および示説を行い、毎回の確認試験により到達度の判定を行う。到達していない者(65%未満)にはレポートを課す。不正咬合の模擬治療については、事前に各ステータス毎の診断資料を配布し、各講義までに分析と症例のまとめを課す。

### 5. 履修の準備 (参考書)

本講義は解剖学分野における口腔解剖学、生理学における歯槽骨の吸収添加のメカニクス、理工学における歯科用金属およびレジンに関する物性に関する知識を活用して授業を行う。また、本講義は主に小児歯科学、口腔外科学と関連を持ち、履修後には5年次の臨床実習、6年次の臨床総合講義へとつながる。

予習：各講義内容に対し歯科矯正学第5版を用い各自で内容の確認を行う。課題については事前に各自で調べる。

復習：授業内で配布したプリント、歯科矯正学第5版、新しい歯科矯正学を参考に知識の確認を行う。

参考書として、川本達雄 他 編「改訂 新しい歯科矯正学」永末書店 2012年を推奨する。

### 6. 評価方法

中間試験、定期試験および適宜試験で評価する。試験は記述式とする。

### 7. 教本

相馬邦道 他 編「歯科矯正学 第5版」医歯薬出版 2009

### 8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/5	歯科矯正学概論および歴史	矯正歯科治療の定義と目的、意義を講義する。	E-4-(1)-① /必17-A	①
2	4/12	成長発育(全身の成長発育)	身体の成長発育について講義する。	E-4-(2)-① /総V-1-オカキ	②
3	4/19	頭蓋の発生および成長発育	頭骨の発生と脳頭蓋の成長発育を講義する。	E-2-(3)-③ /総V-4-イウ	〃
4	4/26	顔面頭蓋の成長発育	顔面頭蓋の発生と成長発育を講義する。	E-2-(3)-③ /総V-4-イウ	〃
5	5/10	歯・歯列および咬合の成長	歯の形成及び萌出、咬合の変化を講義する。	E-2-(3)-④ /総V-4-ウ	〃
6	5/17	口腔機能の発達	口腔機能の発達を講義する。	E-2-(2)-③ /総V-5-アイウ	〃
7	5/24	咬合概論	咬合に関する諸構造の解剖学および機能を講義する。	E-2-(2)-③ /各II-7-A	③
8	5/29	正常咬合	正常咬合の概念、成立とその保持条件を講義する。	E-2-(2)-③ /各II-7-A	〃
9	5/31	不正咬合の疫学および定義	不正咬合の疫学、定義について講義する。	E-4-(1)-② /各I-(3)-A	④
10	6/7	不正咬合の分類	不正咬合の分類について講義する。	E-4-(1)-② /各II-7-イ	〃
11	6/14	不正咬合の先天的原因	不正咬合の先天的原因について講義する。	E-2-(4)-① ②/各II-7-エ	〃
12	6/21	不正咬合の後天的原因	不正咬合の後天的原因について講義する。	E-2-(4)-① ②/各II-7-エ	〃
13	6/28	不正咬合の予防	口腔顎顔面における異常の要因、機序を解説する。	E-2-(4)-① /各I-3-イ	〃
14	7/5	矯正力と生体反応	矯正歯科治療による生体反応について講義する。	E-4-(1)-⑧ /各II-9-アウ	②
15	7/12	〃	〃	E-4-(1)-⑧ /各II-9-アウ	〃
16	9/5	矯正歯科治療におけるPOS	矯正歯科治療におけるPOSについて講義する。	(6) E-4-(1)-①/各II-8-エ	①

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
17	9/5	診査と検査(1)	一般診査(全身, 写真, 模型分析法)を講義する。	E-4-(1)-④ /各II-8-アイ	①
18	9/12	診査と検査(2)	一般診査, エックス線検査の種類を講義する。	E-1-(2)-④ ⑤⑥⑦/各II-8-イ	〃
19	〃	診査と検査(3)	頭部エックス線規格写真分析について講義する。	E-1-(2)-⑧ /各II-8-イ	〃
20	9/19	診査と検査(4)	各種機能検査および分析法について講義する。	E-4-(1)-④ /各II-8-イ	〃
21	〃	抜歯法(1)	矯正治療の抜歯の意義, 部位を講義する。	E-4-(1)-④ /各II-8-ウ	〃
22	9/26	治療方針の立案, 治療学概論	総合的診断, 治療方針の立案について説明する。	E-4-(1)-④ /各II-8-エ	〃
23	〃	抜歯法(2)	連続抜去法について講義する。	E-4-(1)-④ /各II-8-ウ	〃
24	10/3	矯正力と固定	矯正力の種類, 大きさと作用様式の講義を行う。	E-4-(1)-⑦ /各II-9-エ	〃
25	〃	〃	歯の移動様式, 矯正歯科治療の固定の講義を行う。	E-4-(1)-⑦ /各II-9-エ	〃
26	10/10	矯正装置(1)	矯正装置の分類および構成, 適応症の講義を行う。	E-4-(1)-⑥ /各II-10-ア ~ニ	〃
27	〃	矯正装置(2)	〃	E-4-(1)-⑥ /各II-10-ア ~ニ	〃
28	10/17	矯正装置(3)	〃	E-4-(1)-⑥ /各II-10-ア ~ニ	〃
29	〃	矯正装置(4)	〃	E-4-(1)-⑥ /各II-10-ア ~ニ	〃
30	10/24	矯正材料, 器具	矯正歯科治療に使用される材料, 器具の講義を行う。	E-4-(1)-③ /総XI-15-ア ~オ	④
31	〃	〃	〃	E-4-(1)-③ /総XI-15-ア ~オ	〃
32	10/31	不正咬合の治療(1)	叢生の治療を通じ, 抜歯判定を含めた理解を深める。	E-4-(1)-④ /各II-11-アイ	〃
33	〃	〃	〃	E-4-(1)-④ /各II-11-アイ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
34	11/7	不正咬合の治療(2)	機能性と骨格性反対咬合について理解を深める。	E-4-(1)-④ /各II-11-アイウ	③
35	〃	〃	〃	E-4-(1)-④ /各II-11-アイウ	〃
36	11/14	不正咬合の治療(3)	上顎前突症例の機能分析, 成長発育を理解する。	E-4-(1)-④ /各II-11-アイウ	②
37	〃	〃	〃	E-4-(1)-④ /各II-11-アイウ	〃
38	11/21	不正咬合の治療(4)	顎変形症の総合診断と矯正歯科治療を理解する。	E-4-(1)-④ /各II-11-エ	④
39	〃	不正咬合の治療(5)	矯正歯科治療時の偶発症について理解を深める。	E-4-(1)-④ /各II-11-ク	〃
40	11/28	不正咬合の治療(6)	口唇・口蓋裂の診断と矯正歯科治療を理解する。	E-4-(1)-④ /各II-11-アイウ	〃
41	〃	不正咬合の治療(7)	筋機能療法(MFT)について理解する。	E-4-(1)-④ /各II-6-オ	〃
42	12/5	不正咬合の治療(8)	保定の意義, 種類, 再発防止策について理解する。	E-4-(1)-④ /各II-11-キク	①
43	〃	〃	〃	E-4-(1)-④ /各II-11-キク	〃
44	12/12	頭部エックス線規格写真の試験(中間試験)	頭部エックス線規格写真に関する試験を行う。	E-4-(1)-④ /	〃
45	〃	総まとめ	重要項目に対する総まとめを行う。	E-4-(1)-④ /	〃

## 歯科矯正学実習（後期・1単位）

科目責任者：福井 和徳（矯正・教授）

科目担当者：①福井 和徳（矯正）、②板橋 仁（矯正）、  
③竜 立雄（矯正）、④黒田 栄子（矯正）、  
⑤川鍋 仁（矯正）、⑥佐藤 直生（矯正）、  
⑦細谷 尚史（矯正）、⑧海老澤聡一（矯正）、  
⑨山野辺晋也（矯正）、⑩渡辺 敦（矯正）、  
⑪双石 博之（矯正）、⑫三宅 弘直（非常勤）、  
⑬大塚 香織（非常勤）

### 1. 科目の概要

歯科医療における矯正歯科の役割はますます高まっている。叢生歯列でブラッシングをいくら努力しても、傾斜歯に対してそのままブリッジを装着しても、歯科治療には限界がある。上下歯列の良い咬合が保たれて、口腔の健康が維持されていることを考えれば、矯正歯科治療は歯科医療にとって最も基本的な医療として位置づけることができる。実習では、歯科矯正学の臨床的な面に関して、講義や参考書からでは理解しにくい部分を、実技を通して修得する。

### 2. 一般目標

デュプロマポリシーの技能と治療能力を身につける。歯が移動する原理について理解するために、舌側弧線装置およびマルチブラケット装置で歯の移動をシミュレートし、学習する。

### 3. 到達目標

- 1) 基本手技の線屈曲、自在ろう接を正しく行なうことができる。
- 2) 矯正診断に必要な資料を分析できる。
- 3) 舌側弧線装置を製作し補助弾線の作用と歯の移動様相を理解することができる。
- 4) マルチブラケット装置で個々の歯の移動、臼歯の直立化を行うことができる。
- 5) タイポドント模型上で矯正力が発現するメカニズムや歯の移動様式を理解することができる。

### 4. 履修の進め方

実習前に示説を行う。各矯正装置を作製し、作用と歯の移動様相を観察する。歯の移動様相の観察には、デジタルカメラを使用し、各自のコンピュータにて画像データをパワーポイントにまとめ、歯の移動について考察する。各単元ごとに小試験を行い確認しながら履修する。

### 5. 履修の準備（参考書）

第3学年までに得た知識のうち口腔解剖学の骨学、歯の形態、生体材料学の印象材の種類、セメントの特性、金属の特性を復習しておく。実習内容は実習書およびコンピュータビデオに収録されているので、自身で確認し、必ず予習する。本実習で得た知識は第5年時の臨床実習時に活用されることとなる。

参考書：相馬邦道 他 編「歯科矯正学 第5版」医歯薬出版 2009

### 6. 評価方法

リクワイアメントで評価する。到達目標に記載した5項目を以下の内容から100点を満点として評価し、65点以上を合格とする。

〔点数配分の内訳〕

実習の態度（5%）、実習で製作した装置等（5%）、小試験（3回）（10%）、総合試験〔実技（40%）、筆記（40%）〕

### 7. 教本

歯科矯正学実習マニュアルおよび手技の動画を電子媒体にて配布

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	9/7	実習を始めるにあたって基本手技(1)線屈曲	可撤式装置の製作に必要な基本手技である線屈曲を習得する。	E-4-1-⑦/ 各XI-15-ア	① ②
4 5 6	9/14	基本手技(2),(3)自在ろう接,線屈曲	矯正歯科独特の基本手技である自在ろう接の必要性を理解し,手技を習得する。	E-4-1-⑦/ 各XI-16-ア	②
7 8 9	9/21	模型分析セファロ分析小試験	症例の分析に必要な資料,分析項目を習得する。	E-4-1-④/ 各II-8-イ	⑤
10 11 12	9/28	舌側弧線装置	バンドの適合,チューブの電気溶接の方法を習得する。	E-4-1-⑥/ 各II-10-シ	③
13 14 15	10/5	舌側弧線装置	舌側弧線装置の作業用模型の作製手順を習得する。	E-4-1-⑥/ 各II-11-シ	⑦
16 17 18	10/12	舌側弧線装置	維持装置の作製手順を習得する。	E-4-1-⑥/ 各II-12-シ	④
19 20 21	10/25	舌側弧線装置	主線を鑲着し,舌側弧線装置のセメント合着の手順を習得する。	E-4-1-⑥/ 各II-13-シ	⑨
22 23 24	10/26	舌側弧線装置小試験	舌側弧線装置へ補助弾線を鑲着し,舌側転位歯の移動様式を理解する。	E-4-1-⑦/ 各II-14-シ	⑤
25 26 27	11/2	マルチブラケット装置	マルチブラケット装置について口頭試問形式で習得する。	E-4-1-⑥/ 各II-10-サ	⑥
28 29 30	11/9	マルチブラケット装置	適切なブラケットの装着方法を習得する。	E-4-1-⑤/ 各II-11-サ	③
31 32 33	11/16	マルチブラケット装置	ニッケルチタンのアーチワイヤーによる歯列のレベリング法を習得する。	E-4-1-⑥/ 各II-12-サ	⑧
34 35 36	11/30	マルチブラケット装置	歯の排列に必要な空隙獲得法を習得する。	E-4-1-⑥/ 各II-13-サ	④

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
37 38 39	12/7	マルチブラケット装置	オープンバーチカルループを用いて舌側転位歯の移動の方法を習得する。	E-4-1-⑥/ 各Ⅱ-14-サ	⑫
40 41 42	12/14	マルチブラケット装置 小試験	アップライトスプリングを用いて下顎臼歯の整直法を習得する。	E-4-1-⑥/ 各Ⅱ-15-サ	⑬
43 44 45	12/21	総合試験	矯正装置の製作方法、作用様式に関する修練度、理解度を試験する。	E-4-1-⑤/ 各Ⅱ-16-サ	①

## 小児歯科学 (通年・3単位)

科目責任者：島村 和宏 (小児・教授)

科目担当者：①島村 和宏 (小児), ②加川千鶴世 (小児)

### 1. 科目の概要

小児歯科学は、成長発育の過程にある小児を対象にした歯学の一分野である。小児歯科臨床では小児の歯列・咬合を健全に維持、育成するために、口腔領域（歯、歯列、咬合、歯周組織、顎顔面頭蓋）の疾患や異常の診断、治療、予防に関することや、継続的に成長発育している小児の口腔管理を行うことによって、将来の健全な永久歯列咬合を育成していくことを目的としている。小児歯科学における講義では、こうした成長期の小児についての理解と疾病の治療、予防について講義を行う。

### 2. 一般目標

小児の口腔健康維持、歯列・咬合の育成をはかるために、成長発育を学び、小児の口腔発育・発達および種々の口腔疾患を理解して、その診断と治療法についての知識と技術を習得する。

### 3. 到達目標

- 1) 小児心身の発育の特徴、成長発育の評価法を説明する。
- 2) 小児の歯・歯列咬合、顎顔面頭蓋発育と障害・異常を説明する。
- 3) 乳歯・幼若永久歯・歯周組織の特徴と異常、予防を説明する。
- 4) 小児情動の特徴および患児への歯科的対応を説明する。
- 5) 小児患者の治療方針、治療計画、口腔管理を説明する。
- 6) 乳歯・幼若永久歯の歯冠修復法、歯内療法を説明する。
- 7) 小児の外科的疾患、軟組織疾患、外傷を説明する。
- 8) 小児の咬合誘導処置（保険、動的咬合誘導処置）を説明する。
- 9) 障害児、小児疾患およびその歯科治療を説明する。

### 4. 履修の進め方

講義形式で、教科書、参考書およびプリント資料を活用して講義を行う。講義中に示される視覚教材や補助教材も活用し理解を深め、習得する。

### 5. 履修の準備 (参考書)

小児歯科学は、解剖学、生理学をはじめとする基礎科目や歯科保存学、口腔外科学など臨床科目と関連がある。3年生までの履修内容を復習すると、小児歯科学の理解はより深まる。事前にシラバス、教科書に目を通し講義内容を確認する(30分)。毎回の講義終了後、板書内容、配布プリントに目を通し、教科書と照らし合わせ内容を確認する(60分)。

### 6. 評価方法

- 1) 前、後期の定期試験は総括的評価によって、いずれも筆記試験（客観試験、記述試験）を行う。
- 2) 前、後期の定期試験では65点以上を合格とし、65点未満または定期試験欠席者に対し1回のみ追再試験を行い65点以上を合格とする。
- 3) 前、後期の評価を各50%、合計100%として最終評価とし、65%以上を合格とする。

### 7. 教本

新谷誠康 他 編：

小児歯科学 ベーシックテキスト 永末書店 2016  
 クリニカルテキスト 永末書店 2016

前田隆秀 他 編：

小児歯科学基礎・臨床実習 第2版 医歯薬出版 2014

### 8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/5	小児の成長発育概論	小児歯科学の特徴、発育概論	E-4/必-1, -4, -7, 総V-1, 2, VII-2	①
2	4/5	小児の成長発達①	身体の成長、評価	E-4/必-1, -4, -7, 総V-1, 2	〃
3	4/12	小児の成長発達②	小児の発達運動・言語・情緒	E-4/必-7, 総V-2	〃
4	4/12	小児の成長発達③	小児の発達運動・言語・情緒 生理的特徴	E-4/必-7, 総V-2	〃
5	4/19	小児の成長発達④	小児の生理的特徴・栄養	E-4/必-7, 総V-2	②
6	4/19	頭蓋と顎の発育	頭蓋・顎の発育	E-4/必-7-1, -ウ, 総V-4	〃
7	4/26	頭蓋と顎の発育	頭蓋・顎の発育、顎関節の発育	E-4/必-7-1, -ウ, 総V-4	〃
8	4/26	口腔機能の発達	摂食嚥下の発達、顎顔面発育の評価	E-4/総IV-3, V-5	〃
9	5/10	歯の発育と異常	歯の形成、異常の原因	E-4/必-7, 総V-3	①
10	5/10	歯の形成異常	歯数、形態、歯質の異常	E-4/必-14, 総VI-11	〃
11	5/15	歯の形成異常	歯数、形態、歯質の異常	E-4/必-14, 総VI-11	〃
12	5/15	歯列咬合発育と異常	歯の萌出と異常、歯列咬合の発育変化	E-4/必-7, 総V-4	〃
13	5/17	歯列咬合発育と異常	歯列咬合の発育変化・異常	E-4/必-7, 総V-4, VII-2	〃
14	5/17	歯列咬合発育と異常	歯列咬合の発育変化・異常	E-4/必-7, 総V-4, VII-2	〃
15	5/24	乳歯・幼若永久歯の特徴	乳歯の特徴	E-4/必-6-, 総IV-4	②
16	5/24	乳歯・幼若永久歯の特徴	幼若永久歯の特徴	E-4/必-6, 総IV-4	〃
17	5/31	小児の歯周組織と歯周疾患	歯周組織の特徴、歯周疾患と予防	E-4/必-6, 総IV-4	①
18	5/31	小児の齲蝕	小児期の齲蝕の特徴、為害作用、検査、診断	E-4/必-9, 各I-1	〃
19	6/7	小児の齲蝕	小児期の齲蝕の特徴、為害作用、検査、診断	E-4/必-3, -12, 各I-1	〃
20	6/7	小児への歯科的対応	小児の心理、歯科的対応の実際	E-4/必-10, 総VIII-2, X-6	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
21	6/14	小児への歯科 的対応	年齢別対応, 行動変容法	E-4/必-15, 総VIII-1,-2, X-2	①
22	6/14	小児への歯科 的対応	前投薬法, 精 神鎮静法, 全 身麻酔法	E-4/必-15, 総VIII-1, X-6	〃
23	6/21	診察・検査・ 診断	診察, 検査法, 診療計画	E-4/必-11, 総IX-1,-2	〃
24	6/21	診察・検査・ 診断	診察, 検査法, 診療計画	E-4/必-11, 総IX-1,-2	〃
25	6/28	齲蝕予防と進 行抑制	齲蝕予防法, 進行抑制	E-4/必-9, 各I-1	〃
26	6/28	小児の歯冠修 復	齲蝕治療の基 本, 歯冠修復 の種類	E-4/必-15-, -16, 総XI-7, 各V-2	〃
27	7/5	小児の歯冠修 復	歯冠修復の種 類, 形成時の 注意	E-4/必-15-, -16総XI-13, 各III-3	〃
28	7/5	小児の歯冠修 復	歯冠修復法	E-4/必-15-, -16総 XI-13, 各III-3	〃
29	7/12	小児の歯冠修 復	幼若永久歯の 歯冠修復	E-4/総XI-13, 各III-3	〃
30	7/12	小児の歯内療 法	乳歯の歯髄疾 患, 根尖性歯 周炎の診断と 処置	E-4/必10~ 14, 総VI11, VII2, IX1	〃
31	9/5	小児の歯内療 法	乳歯の歯髄疾 患, 根尖性歯 周炎の診断と 処置	E-4/必10~ 14, 総VI11, VII2, XI-7	②
32	9/12	小児の歯内療 法	幼若永久歯の 歯内療法	E-4/必-15, 総X-5, III-4	〃
33	9/19	外科的処置	疼痛管理, 局 所麻酔, 偶発 症	E-4/必-4, -15, 総X-1, 3, 6	①
34	9/26	乳歯の抜歯	抜歯の適応症, 器具・器材	E-4/必-4, 15, 総X-1, 3, 6	〃
35	10/3	リスクマネー ジメント	リスクマネー ジメント, 薬 物療法	E-4/必-4, 15, 総X-1, 3, 6	〃
36	10/10	顎・軟組織疾 患	顎骨の炎症, 腫瘍, 嚢胞	E-4/必-9, 14, 総VI, VII, IX, 各II-4	〃
37	10/17	軟組織疾患	軟組織の異常 処置	E-4/各IV-1, 4, 6, 10, 12, 16	〃
38	10/24	口腔外傷	外傷の疫学, 分類, 検査と 診断	E-4/各II-5, III-6, IV-8	〃
39	10/31	口腔外傷	外傷歯の処置 と予防	E-4/各II-5, III-6, IV-8	〃
40	11/7	咬合誘導	咬合誘導の目 的, 診察, 検 査, 診断, 保 険	E-4, 必9~ 15, 総VII-2, IX-1	〃
41	11/14	咬合誘導	保険, 動的誘 導, 習癖	E-4, 必9~ 15, 各I-3, II-6, 7, 8	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
42	11/21	小児の摂食嚥 下障害・顎関 節症	摂食嚥下障害, 顎関節症	E-4/必-6- 14, 総VI, VII, IX, 各II IV	①
43	11/28	心身障害児	心身障害児へ の対応, 障害 の特徴	E-4/必-2, 15, 総II-8, VIII-3	〃
44	12/5	心身障害児 注意する全身 疾患	障害の特徴, 全身疾患と口 腔所見	E-4/必-2, 15, 総II-8, VIII-3, X-2	〃
45	12/12	注意すべき全 身疾患 児童 虐待	全身疾患と口 腔所見, 児童 虐待	E-4/必-15, 総II, VII, 各 II, IV15, 16	〃

# 小児歯科学実習（後期・1単位）

科目責任者：島村 和宏（小児・教授）

科目担当者：①島村 和宏（小児）、②加川千鶴世（小児）、  
③永山 道代（小児）、④金子 知弘（非常勤）、  
⑤原 憲司（非常勤）、⑥春山 博貴（非常勤）、  
⑦山内 旬美（非常勤）、⑧岡 琢弓（非常勤）、  
ほか

## 1. 科目の概要

小児歯科学実習では講義で学んだ知識をもとに、小児患者の各種歯科疾患に対する治療法の理論を学習し、その基本的手技、装置作製の技術を習得する。

## 2. 一般目標

小児の口腔健康維持、歯科疾患の治療を行うために、齲蝕予防、齲蝕治療、咬合誘導処置の理論と技術を習得する。

## 3. 到達目標

- 1) 小児歯科治療について必要な各種器具・器材について説明する。
- 2) ラバーダム防湿をする。
- 3) 乳臼歯のコンポジットレジン修復の窩洞（1級）を形成する。
- 4) 乳臼歯のインレー修復の窩洞形成（2級）を形成する。
- 5) 乳歯の歯髄処置（生活歯髄切断）をする。
- 6) 乳臼歯の既製金属冠修復をする。
- 7) 乳前歯の歯冠修復をする。
- 8) クラウンループ保険装置を設計、製作する。
- 9) 可撤保険装置を設計、製作する。
- 10) 予防填塞をする。
- 11) フッ化物歯面塗布をする。
- 12) 咬合誘導装置（保険装置）の説明をする。
- 13) 保護者に対するブラッシング指導をする。

## 4. 履修の進め方

実習書、配布資料に基づき、小児歯科学教科書も参考にし、各種処置法・装置製作法の理論を学ぶ。また視覚教材（VTR・スライドの映像など）、各班ごとのデモンストレーションから、実際の使用器材、作業手順＜術式＞、注意点を理解し技術習得の助けにする。また各班でのインストラクターから実習途中でのチェック、アドバイスを受け、実習予定に従って各実習項目を完了させる。項目ごとに小試験で評価を受け、レポートを提出する。

## 5. 履修の準備（参考書）

シラバス、教科書、実習書に目を通し、実習内容を確認して小テストに備える（60分）。毎回の実習終了後、教科書、実習書を用いて復習をする（30分）。その他、疑問点があれば科目担当者や担当教員に質問する。

## 6. 評価方法

到達目標をすべてミニマムリクワイヤメントとして評価する。模型実習の各項目＜8項目＞・演習＜2課題＞について、指導医の指示のもとスムーズに実施し、各製作物は患児に装着できるレベルで作製・提出する。これらを80%、また実習試験・小テストを20%とし、すべてを総合して100点として評価する。総合評価で65点を合格とする。

## 7. 教本

新谷誠康 他 編：

小児歯科学 ベーシックテキスト 永末書店 2016

クリニカルテキスト 永末書店 2016

前田隆秀 他 編：

小児歯科学基礎・臨床実習 第2版 医歯薬出版 2014

## 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	9/6	器材説明 顎模型ナンバリング石膏模型の装着	顎模型にナンバリング石膏歯列模型の咬合器への装着	XI-5-ア	① ⑧
4 5 6	9/13	(1)ラバーダム防湿 (2)乳歯歯冠修復	使用器材の確認 ラバーダム防湿	E-1, 4/必-4, 各Ⅲ-3, V-2	〃
7 8 9	9/20	乳歯歯冠修復法1) 成形充填窩洞 CR充填/冠修復	E; 1級成形充填窩洞形成とCR充填A; 支台歯形成CR冠修復	E-4/必-15, 総XI-2, 7, 各Ⅲ-3	〃
10 11 12	9/27	乳歯歯冠修復法 2)インレー窩洞	乳臼歯隣接面を含む窩洞E; 2級インレー窩洞	E-4/必-15, 総XI-2, 7, 各Ⅲ-3	〃
13 14 15	10/4	乳歯の歯内療法生活歯髄切断法	生活歯髄切断法E; 水酸化カルシウム法による生活歯髄処置	E-4/必-15, 各Ⅲ-3, 6	〃
16 17 18	10/11	乳歯歯冠修復法 (3)既製乳歯冠装着	乳臼歯の既製金属冠修復法E; 断髄後の支台歯形成	E-4/必-15, 各Ⅲ-3	〃
19 20 21	10/18	保険装置1) クラウンループ製作 2)可撤保険装置製作	咬合誘導の概要 クラウンループ保険装置の設計と製作, 可撤保険装置の外形線設定	E-4/必-9~15, 総VII-2, IX-1, 各Ⅰ-3, II-6, 7, 8	〃
22 23 24	10/19	クラウンループ作成	クラウンループの屈曲, ろう着	E-4/各論II-6	〃
25 26 27	11/1	クラウンループ作成可撤保険装置 (2)単純鈎	ループ研磨, 装着, 単純鈎の屈曲	E-4/各II-6	〃
28 29 30	11/8	可撤保険装置 (3)アダムスクラスプ (4)人工歯配列	単純鈎, アダムスクラスプの屈曲, 人工歯配列	E-4/各II-6	〃
31 32 33	11/15	可撤保険装置 (5)レジン床の形成	レジン床の形成, 形態修正, 研磨	E-4/各II-6, XI-15	〃
34 35 36	11/22	可撤保険装置 (6)レジン床の研磨	レジン床の形成, 形態修正, 研磨	E-4/各II-6, XI-15	〃
37 38 39	11/29	模型計測 保護者へのブラッシング指導	歯列模型の計測, 保護者に対する家庭でのブラッシング指導	E4, F-1/必1, 3, 8, 総VIII, IX1, 各Ⅰ-1, 2, 6, II-6	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
40 41 42	12/6	予防填塞処置 フッ化物応用 法	防湿下での下 顎両側第一大 臼歯予防填塞, 乳歯列のフッ 化物歯面塗布	E-1/必-3, 総XI-7, 13 各 I	① ⑧
43 44 45	12/13	実習試験・総 括実習		総括試験	① ③

## 歯科放射線学Ⅱ（前期・1単位）

科目責任者：原田 卓哉（放射・教授）

科目担当者：①原田 卓哉（放射）、②茂呂祐利子（放射）

### 1. 科目の概要

放射線の医学利用には放射線診断や放射線治療があり、患者に利益をもたらしている一方で、被曝による危険も共存しています。放射線利用には、知識や技術的なことはもちろん、良識のある放射線診療・インフォームドコンセントも重要になります。

歯科放射線学は基礎放射線学として放射線物理学、放射線生物学、放射線化学を、また臨床放射線学として放射線診断学、放射線治療学、放射線防護学を学びます。基礎放射線学では、放射線の基礎的知識やその生物学的影響を学び、臨床放射線学では放射線を利用した画像診断、放射線治療に必要な撮影技術、腫瘍治療学さらに放射線防護について学びます。

### 2. 一般目標

- 1) 的確な画像診断を行うために、歯科領域の画像所見における特徴を理解する。
- 2) 口腔領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理を実施するために、放射線治療の基礎と実際を理解する。

### 3. 到達目標

- 1) 画像診断について述べる。
- 2) 歯と歯周組織の病変について述べる。
- 3) 口腔顎顔面領域の疾患について述べる。
- 4) 腫瘍の放射線治療について述べる。
- 5) 放射線治療患者の口腔管理について述べる。

### 4. 履修の進め方

- 1) 講義、示説で学習する。
- 2) 文書、視覚媒体を用いる。
- 3) 投影視覚媒体を用いる。

### 5. 履修の準備（参考書）

予習：教科書の熟読を中心に予習する。(60分)

復習：教科書および講義ノートの振り返りにより復習する。(60分)

その他：

参考書：

田口 明 著「基礎から始める歯科放射線学」IDP出版 2012

日本歯科放射線学会編「歯科臨床における画像診断アトラス」医歯薬出版 2008

### 6. 評価方法

定期試験で評価する。評価基準：定期試験100%により評価する。

試験方法：筆記試験。形式：多肢選択形式および記述式。

範囲：講義内容全範囲。

### 7. 教本

岡野友宏 他「歯科放射線学 第5版」医歯薬出版 2013

佐野 司 編「歯科放射線マニュアル」南山堂 2006

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/7	画像解剖1	口内法エックス線写真における正常エックス線解剖	E-2-1), E-2-2) / 総IV-1, IV-4	①

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
2	4/14	画像解剖2	パノラマエックス線写真における正常エックス線解剖	E-2-1), E-2-2) / 総IV-1, IV-4	①
3	4/21	歯と歯周組織1	形成異常, 発育異常	E-3-2) / 各II-3	〃
4	4/28	歯と歯周組織2	齶蝕, 根尖性歯周疾患, 歯周炎におけるエックス線像	E-3-2) / 各III-2, 各III-5, 各III-8	〃
5	5/12	嚢胞	嚢胞の基本的エックス線像	E-2-4) / 各IV-10	〃
6	5/19	良性腫瘍1	良性腫瘍の基本的エックス線像	E-2-4) / 各IV-11	〃
7	5/26	良性腫瘍2	良性腫瘍および非歯原性腫瘍の画像所見	E-2-4) / 各IV-11	〃
8	6/2	悪性腫瘍	悪性腫瘍の基本的エックス線像, レントゲンサイン	E-2-4) / 各IV-11	① ②
9	6/9	炎症	炎症の概要, 基本的エックス線像	E-2-4) / 各IV-9	①
10	6/16	腫瘍類似疾患	線維性異形成症, Paget骨病, Histiocytosis X	E-2-4) / 各IV-11	〃
11	6/23	上顎洞病変	上顎洞解剖, 基本的エックス線所見	E-2-4) / 各IV-9, 各IV-10	〃
12	6/30	顎関節病変	顎関節解剖, 基本的エックス線所見	E-2-4) / 各IV-14	〃
13	7/7	唾液腺病変	唾液腺病変の基本的画像所見, 唾液腺造影	E-2-4) / 各IV-12	〃
14	7/10	顎骨に影響する全身疾患	代謝性疾患, 内分泌疾患, 先天性疾患, 遺伝性疾患の画像所見	E-2-4) / 各IV-15, 各IV-16	〃
15	7/14	まとめ	これまでの講義内容まとめ		〃

## 高齢者歯科学Ⅱ（後期・1単位）

科目責任者：鈴木 史彦（麻醉・准教授）

科目担当者：①鈴木 史彦（麻醉）、②植田耕一郎（客員）、  
③阪口 英夫（非常勤）、④山川 治（非常勤）

### 1. 科目の概要

摂食嚥下障害は脳血管障害、認知症、神経筋疾患、頭頸部癌、加齢等により、食物の取り込みや嚥下に障害をきたしたものである。嚥下障害の合併症として誤嚥性肺炎、窒息、低栄養、脱水等が挙げられる。高齢者にとっては死亡の原因ともなる合併症であるため、嚥下機能を適切に評価して、リハビリテーションによって機能の向上や維持を図るのか、より安全な栄養管理を実施するののかといった選択が必要となる。高齢者歯科学Ⅱでは摂食嚥下モデルの概念、評価方法、訓練方法、嚥下補助床等について理解し、歯科医師として摂食嚥下リハビリテーションの臨床にどのように関わるのかを学習する。

### 2. 一般目標

摂食嚥下リハビリテーションを実施するために必要な知識と診断能力を習得する。

### 3. 到達目標

- 1) リハビリテーションの概念を説明する。
- 2) 摂食嚥下器官の解剖と生理を説明する。
- 3) 摂食嚥下モデルと各時期の摂食嚥下障害を説明する。
- 4) 摂食嚥下障害に関係する諸因子を説明する。
- 5) 摂食嚥下障害の合併症を説明する。
- 6) 摂食嚥下障害の検査方法を説明する。
- 7) 摂食嚥下障害に対する間接・直接訓練を説明する。
- 8) 摂食嚥下障害に対する食事指導を説明する。
- 9) 嚥下補助床について説明する。
- 10) 高齢者の栄養評価と栄養管理方法を説明する。

### 4. 履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

### 5. 履修の準備（参考書）

本科目の履修準備として摂食嚥下障害の原因疾患である脳血管障害、認知症、神経筋疾患等については高齢者歯科学Ⅰと総合医学の内容を復習しておくこと。また、摂食嚥下に関係する生理と解剖については口腔生理学と口腔解剖学の内容を復習しておくこと。

本科目で履修する内容のうち、他分野と関係が深い科目は次の通りである。リハビリテーションの理念：障害者歯科学、評価と訓練での多職種連携：チーム医療学、嚥下補助床：有床義歯学Ⅰ・Ⅱ、在宅診療や歯科訪問診療：高齢者歯科学Ⅰ。

講義直後は配布資料について復習しておくこと。理解が不十分な項目については担当教員に質問すること。

参考書：摂食嚥下リハビリテーション 第3版 医歯薬出版

### 6. 評価方法

定期試験（追・再試験を含む）で評価する。試験範囲は到達目標の範囲とする。試験内容は論述試験を80点と客観試験を20点とした合計100点のうち、65点以上を合格とする。追・再試験は65点以上を合格とするが、本試験で65点未満であった者が合格した場合の最終評価点は65点とする。本試験で65点以上であったが任意に再試験を受験した者は、本試験と再試験のうち点数の良いほうを最終評価点とする。出席率や態度は最終評価に反映させない。

### 7. 教本

歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学 医歯薬出版

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	障害学	リハビリテーションの理念、ICF、アプローチ法	E-4-3) / 各VI-16-イ	①
2	9/11	構造と機能	摂食嚥下器官の解剖と生理	E-4-3) / 総IV-3-カ	〃
3	9/25	摂食嚥下モデルと摂食嚥下障害	3期、4期、5期モデルとプロセスモデル各期の障害	E-4-3) / 総IV-3-カ	〃
4	10/2	原因と病態1	摂食嚥下に関与する諸因子、構音障害	E-4-3) / 総X-7-ウ	〃
5	10/16	原因と病態2	合併症（誤嚥性肺炎・窒息・低栄養・脱水）	E-4-3) / 各VI-15-イ	〃
6	10/23	評価・検査1	スクリーニングテスト	E-4-3) / 各VI-16-ア	〃
7	10/30	評価・検査2	嚥下造影、嚥下内視鏡検査	E-4-3) / 各VI-16-ア	〃
8	11/6	訓練1	間接訓練	E-4-3) / 各VI-16-イ	〃
9	11/13	訓練2	直接訓練、段階的摂食訓練	E-4-3) / 各VI-16-イ	〃
10	11/20	食事指導	食事指導、食事介助	E-4-3) / 各VI-16-イ	〃
11	11/27	歯科的アプローチ	摂食嚥下障害のための補助装置	E-4-3) / 各VI-16-イ	〃
12	12/4	高齢者と栄養	栄養状態の評価、栄養管理	E-4-3) / 各VI-17-ア～オ	〃
13	12/11	臨床1	摂食嚥下リハビリテーションの臨床	E-4-3) / 各VI-16-ア、イ	②
14	12/18	臨床2	摂食嚥下リハビリテーションの臨床	E-4-3) / 各VI-16-ア、イ	③
15	12/19	臨床3	摂食嚥下リハビリテーションの臨床	E-4-3) / 各VI-16-ア、イ	④

## 障害者歯科学（後期・1単位）

科目責任者：佐々木重夫（歯内・准教授）

科目担当者：①佐々木重夫（歯内）

### 1. 科目の概要

障害者歯科学は、口腔や歯の健康を守っていくために、自身に障害のある人に対し歯科保健指導や歯科治療を行う歯科医療学であり、その障害には個人個人で特異的な問題が付随することから、生理学的、身体的、心理的特徴を十分に理解し、全身管理上の問題点と顎・口腔の生理学的な機能の回復・維持を学ぶ必要がある。さらに、近年高まってきている障害者に対する歯科医療を十分に理解し、その患者のQOL（Quality of life）を考えた歯科医療をどのように実践していくのかを学ぶ。

### 2. 一般目標

障害者歯科では、歯科保健医療を障害者に提供するために、社会保障制度などの法的側面と、障害の程度に合わせた顎・口腔機能の維持・増進に関する歯科的な知識を修得する。さらに、障害者の社会的環境や身体的・心理的特徴、各障害に伴う顎口腔系の変化や全身疾患と歯科治療との関係について基礎的知識を修得する。

### 3. 到達目標

- 1) 障害者に関する概念を説明する。
- 2) 歯科治療に配慮すべき疾患・症候群を説明する。
- 3) 障害者の歯科治療における行動調整について説明する。
- 4) 障害者の歯科治療に必要な注意点を説明する。
- 5) 障害者の障害に合わせた歯科的な管理を説明する。
- 6) 障害者歯科における安全管理を説明する。

### 4. 履修の進め方

学習は講義形式で、教科書を中心に液晶プロジェクターなどの視覚媒体の使用と各教授項目に沿った講義プリントを事前に配布する。

### 5. 履修の準備（参考書）

小児歯科学（行動調整）、口腔外科学（症候群）、歯科麻酔学（行動調整、全身管理）が障害者歯科学と関連が深い。授業直後においては教科書と配布された講義プリントを照合して授業内容の確認を行う。

参考書 森崎市治郎 他編 障害者歯科ガイドブック 医歯薬出版

酒井信明 他編 障害者の歯科医療 医歯薬出版

### 6. 評価方法

定期試験および適宜試験で評価する。評価基準は65点以上を合格とする。試験方法は選択記述形式とし、範囲は授業履修項目とする。

### 7. 教本

日本障害者歯科学会編 スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科医歯薬出版

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	スペシャルニーズ(SN)の捉え方	QOL, ノーマライゼーション, バリアフリー	E-4/必2, 総VIII-3	①
2	9/11	スペシャルニーズ(SN)と社会保障	障害者総合支援法, 医療制度, チーム医療	E-4/総II-8, VIII-6	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	9/25	精神・心理的発達と行動の障害	発達遅滞, 精神遅滞, 自閉性障害(自閉症)	E-4/総VIII-3	①
4	10/2	精神・心理的発達と行動の障害	注意欠陥多動性障害(ADHD), 学習障害(LD)	E-4/総VIII-2, 3	〃
5	10/16	神経・運動障害	脳性麻痺, 筋ジストロフィー, 脊髄損傷, 関節リウマチ, Parkinson病	E-4/総VIII-2, 3	〃
6	10/23	神経・運動障害, 感覚障害	脳血管障害, 筋萎縮性側索硬化症, 視覚・聴覚障害, 先天性無痛無汗症	E-4/各IV-17	〃
7	10/30	精神および行動の障害	統合失調症, うつ病, 神経症, 認知症, 中枢性摂食異常症(摂食障害)	E-4/各IV-17	〃
8	11/6	歯科治療時に配慮すべき疾患	てんかん, 内科的疾患	E-4/各IV-17	〃
9	11/13	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群(1)	症候群	E-1/各IV-17	〃
10	11/20	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群(2)	症候群	E-1/各II-1	〃
11	11/27	歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群(3)	症候群, 難病	E-1/各II-1	〃
12	12/4	行動調整	コミュニケーション法, 行動療法, 薬物的行動調整	E-4/各IV-19	〃
13	12/11	スペシャルニーズ(SN)のある人の歯科治療(1)	歯髄処置, 歯周治療	E-4/総X-2	〃
14	12/18	スペシャルニーズ(SN)のある人の歯科治療(2)	歯冠修復の特徴, 補綴的対応	E-4/総X-2	〃
15	12/19	リスク評価と安全管理	リスク評価, 安全管理, 医療安全管理体制	A-5/必-4, 総X-6	〃

# 臨床総合演習 (通年・2単位)

科目責任者：清野 晃孝 (臨床・准教授)  
科目担当者：(保存修復学) 山田 嘉重, 菊井 徹哉  
(歯周病学) 高橋 慶壮  
(歯内療法学) 木村 裕一, 佐々木重夫,  
佐藤 穂子, 長崎 慶太  
(冠橋義歯学) 関根 秀志  
(有床義歯学) 山森 徹雄  
(口腔外科学) 御代田 駿, 小嶋 忠之  
(矯正歯科学) 福井 和徳, 板橋 仁,  
竜 立雄, 川鍋 仁,  
黒田 栄子, 佐藤 直生,  
海老澤聡一, 細谷 尚史,  
山野辺晋也, 渡辺 敦,  
双石 博之  
(小児歯科学) 島村 和宏, 加川千鶴世,  
永山 道代, 三科祐美子  
(歯科放射線学) 原田 卓哉, 茂呂祐利子  
(歯科麻酔学) 山崎 信也, 富田 修

## 1. 科目の概要

臨床歯科学においては、知識のみならず技能と態度の学習が要求される。次年度に履修する臨床実習では、これまでに学習してきた知識と技能をさらに発展させて、実際の臨床に即した診療参加型の実習を行うことになる。本科目では講義・模型実習で学習した事項と診療参加型臨床実習を段階的に結びつけ、臨床実習へ円滑に移行するための内容を学習する。

## 2. 一般目標

臨床実習において指導医とともに診療に携わるため、基本的歯科疾患に対する診察・検査・診断・治療計画立案および歯科治療を実践するのに必要な知識・技能・態度を習得する。

## 3. 到達目標

- 1) 急性症状を有する初診患者の医療面接を実施する。
- 2) 予防填塞を実施する。
- 3) バイタルサインを観察する。
- 4) 頭頸部の診察を実施する。
- 5) エックス線写真を取り扱う。
- 6) 修復用隔壁の装着を実施する。
- 7) 概形印象採得を実施する。
- 8) 歯周病の診断と病状について説明する。
- 9) 支台歯形成を実施する。
- 10) 保険装置を説明する。

## 4. 履修の進め方

学年を約4, 5名ずつのグループに分け少人数学習を行う。グループ毎に課題を実施し、別紙日程表に準じてローテーションする。演習の場所は中央棟4階と5階の実習室とし、演習中は指定の白衣を着用する。また課題毎に指定された器材、教科書を持参する。

## 5. 履修の準備 (参考書)

シラバス等により事前に提示された課題内容に関して、これまでの講義、模型実習で履修した事項を整理する。(30分)

そして、当日実施した課題に関して、配布プリントや各自のノート・メモ等を見直し、イメージトレーニングを実施する。(30分)

## 6. 評価方法

通年の中間期に、形成的評価として確認試験を1学生につき3課題実施し、即時にフィードバックするも最終評価には加えない。演習の最終3日間で12課題の実技試験を実施する。総括的評価の合格基準は、12課題実技試験の平均値65点以上であり、かつ(公社)医療系大学間共用試験実施機構によるOSCEで6課題の平均値65点以上であることとする。なお、

身だしなみを含む実習態度と出席状況による減点もあり得る。

## 7. 教本

各課題からプリントを配布する。

### 課題. 1 バイタルサイン 口腔外科学講座(麻酔：山崎 信也)

一般目標

診療を行うために、バイタルサインを観察する基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを説明する。
- 2) 患者の日常の血圧を確認する。
- 3) 脈拍を適切に測定する。
- 4) 血圧を適切に測定する。
- 5) 患者に脈拍と血圧の測定値を伝える。

### 課題. 2 心肺蘇生 口腔外科学講座(麻酔：山崎 信也)

一般目標

診療中や院内での偶発的な心肺停止にも対応できるような安全な歯科医療を実践するために、心肺蘇生の基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 意識の有無を評価する。
- 2) 応援とAEDを要求する。
- 3) 呼吸の有無を評価する。
- 4) 人工呼吸を実施する。
- 5) 循環の有無を評価する。
- 6) 胸骨圧迫を実施する。
- 7) 人工呼吸と胸骨圧迫を適切な割合で実施する。
- 8) AEDを安全に操作する。

### 課題. 3 浸潤麻酔 口腔外科学講座(麻酔：山崎 信也)

一般目標

無痛的な治療を行うために、浸潤麻酔についての基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 清潔な状態で必要な器材を選択する。
- 2) 手袋を正しく装着する。
- 3) 器材と薬剤を正しく準備する。
- 4) 患者にこれから行うことを説明する。
- 5) 安全な浸潤麻酔操作を行う。
- 6) 清潔に配慮した操作をする。

### 課題. 4 初診患者の医療面接(急性症状) 歯科保存学講座(歯内：佐々木重夫)

一般目標

急性症状を訴える初診患者との良好な人間関係の構築と問題点の抽出を行うために、医療面接についての基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 面接の導入にあたって、環境を整える。
- 2) 急性病状や心理状態に応じたコミュニケーションをとる。
- 3) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。
- 4) 急性症状やその心理状態に応じた質問をする。
- 5) 病状中心の病歴を聴取する。
- 6) 既往歴を聴取する。
- 7) 解釈モデルを聴取する。
- 8) 急性症状やその心理状態に対する共感的理解の態度を示す。
- 9) 面接の終わりに患者の言い忘れがないかを確認する。
- 10) 面接の終わりに訴えの要約と再確認をする。

### 課題. 5 初診患者の医療面接(慢性症状) 歯科保存学講座(歯内：佐々木重夫)

一般目標

慢性症状を訴える初診患者との良好な人間関係の構築と問題点の抽出を行うために、医療面接についての基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 面接の導入にあたって、環境を整える。
- 2) 慢性病状や心理状態に応じたコミュニケーションをとる。
- 3) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。
- 4) 慢性症状やその心理状態に応じた質問をする。
- 5) 病状中心の病歴を聴取する。
- 6) 既往歴を聴取する。
- 7) 解釈モデルを聴取する。
- 8) 背景(心理的、社会的、経済的)を聴取する。
- 9) 慢性症状やその心理状態に応じた共感的理解の態度を示す。
- 10) 面接の終わりに患者の言い忘れがないかを確認する。
- 11) 面接の終わりに訴えの要約と再確認をする。

### 課題. 6 口腔内状態の記録 歯科保存学講座(歯内：長崎 慶太)

一般目標

口腔内の情報収集を行うために、口腔内状態の記録に求められる基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを説明する。
- 2) 患者に配慮した器具の操作をする。
- 3) 口腔内状態を診療録(記入用紙)に記載する。
- 4) 安全性に配慮した操作ができる。

課題 7 ブラッシング指導 歯科保存学講座(歯周：高橋 慶壮)

一般目標

歯周治療におけるブラッシングの位置づけと重要性を説明し、具体的なブラッシング方法の指導を行うための基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 指導の開始にあたって、環境を整える。
- 2) 様々な媒体を用いて指導する。
- 3) 患者の理解度を確認しながら指導する。
- 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。
- 5) 指導の終わりに、患者の疑問点を確認する。
- 6) ブラッシング法について指導する。
- 7) 歯ブラシの選択法を指導する。
- 8) 患者に練習させながら指導する。

課題 8 レジン充填 歯科保存学講座(修復：菊井 徹哉)

一般目標

光重合コンポジットレジン修復を適切に実施するために必要な基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行う処置を伝える。
- 2) 必要に応じたポジショニングをとる。
- 3) 適切なシェードを選択する。
- 4) 指定された接着システムに基づく歯面処理を実施する。
- 5) 光重合型コンポジットレジンの窩洞充填を的確に実施する。
- 6) 的確な光照射を実施する。
- 7) 清潔に配慮した操作をする。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 9) 安全性に配慮した操作をする。

課題 9 根管治療 歯科保存学講座(歯内：佐藤 穂子)

一般目標

歯髄・根尖歯周組織疾患の治療を行うために、根管治療における根管洗浄およびマスターポイント試適の基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝える。
- 2) 根管洗浄に用いる器具を選択する。
- 3) 必要に応じたポジショニングをする。
- 4) 適切な根管洗浄操作をする。
- 5) 適切な根管乾燥の操作をする。
- 6) マスターポイントの試適をする。
- 7) 清潔に配慮した操作をする。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 9) 安全性に配慮した操作をする。

課題 10 頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察 口腔外科学講座(御代田 駿)

一般目標

頭頸部領域の診察を行うために必要な基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝えることができる。
- 2) 顔面の色調の変化を確認できる。
- 3) 顔面の対称性を確認できる。
- 4) 顎の開閉口路確認できる。
- 5) 顎関節の可動性を触診できる。
- 6) 頭頸部の筋肉の触診ができる。
- 7) 顎下リンパ節の触診ができる。
- 8) 患者の痛みや不快に配慮した診察ができる。
- 9) 診察内容を診療録に記録できる。

課題 11 歯周病の病状の説明 歯科保存学講座(歯周：高橋 慶壮)

一般目標

患者の歯周疾患の病状を診断し、治療の概要および具体的な治療方針について患者に分かり易く説明できるための基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 説明の開始にあたって、環境を整える。
- 2) 様々な媒体を用いて説明する。
- 3) 患者の理解度を確認しながら説明する。
- 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方をする。
- 5) 説明の終わりに、患者の疑問点を確認する。
- 6) 検査結果に基づいて歯周病の病状を正しく説明する。

課題 12 普通拔牙 口腔外科学講座(小嶋 忠之)

一般目標

拔牙に必要な器具を選択し、無菌操作に配慮して安全な拔牙操作を行うために必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを説明する。
- 2) 拔牙術に必要な器具を選択する。
- 3) 清潔に配慮して器材をトレー上に準備する。
- 4) 処置に応じたポジショニングをする。
- 5) 無菌手袋を正しく装着する。
- 6) 患者に配慮した器材の操作をする。
- 7) 指定された歯を拔牙する。
- 8) 清潔に配慮した操作をする。

課題 13 手洗いと滅菌グローブ装着 口腔外科学講座(御代田 駿)

一般目標

清潔な診察を行うために、手洗い方法および滅菌グローブ装着についての基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 清潔・不潔に配慮しながら順序よく手洗いをする。
- 2) 清潔・不潔に配慮しながら滅菌タオルを使用する。
- 3) 無菌的にグローブを装着する。

課題 14 縫合 口腔外科学講座(小嶋 忠之)

一般目標

創面の縫合を行うために必要な基本的態度、技能および知識を習得する。

到達目標

- 1) 必要な器材を選択する。
- 2) 滅菌グローブを正しく装着する。
- 3) 結紮を正しく実施する。
- 4) 糸を正しく切る。
- 5) 清潔に配慮した操作をする。
- 6) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 7) 安全性に配慮した操作をする。

課題 15 エックス線写真の取り扱いと読影 放射線診断学講座(原田 卓哉)

一般目標

正しい画像診断を得るために、撮影された14枚法(あるいは10枚法) エックス線写真を適切に取り扱い、読影する基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) エックス線写真を正しく取り扱う。
- 2) エックス線写真の表裏を判別する。
- 3) エックス線像から解剖的位置を識別する。
- 4) エックス線像の読影をする。

課題 16 エックス線撮影の説明 放射線診断学講座(原田 卓哉)

一般目標

エックス線撮影の同意を得るために、エックス線検査の必要性和人体への影響および防御の説明に必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 撮影の開始にあたって環境を整える。
- 2) 疑問点に関して自由に質問できることを説明する。
- 3) 理解度を確認しながら進める。
- 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方で説明する。
- 5) エックス線撮影の必要性について説明する。
- 6) 口内法エックス線撮影について説明する。
- 7) 放射線の防護について説明する。
- 8) 説明の終わりに説明内容の要約と確認をする。

課題 17 欠損補綴の治療方針の説明 歯科補綴学講座(有床・山森 徹雄)

一般目標

治療にあたっての協力を得るために、補綴治療法の説明についての基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 説明の開始にあたり、環境を整える。
- 2) 様々な媒体を用いて説明する。
- 3) 患者の理解度を確認しながら説明する。
- 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方で説明する。
- 5) 説明の終わりに患者の疑問点を確認する。
- 6) 補綴治療の必要性について説明する。
- 7) 補綴処置の構造の概略を説明する。
- 8) 治療法について、長所、短所を説明する。

課題 18 ラバーダム防湿 歯科保存学講座(歯内：佐藤 穂子)

一般目標

安全かつ効率的な歯科治療を行うために、ラバーダム防湿についての基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝える。
- 2) 必要な器具を準備する。
- 3) 処置に応じたポジショニングをとる。
- 4) 指定された歯に装着する。
- 5) 術野の消毒をする。
- 6) 適切なラバーダム防湿を実施する。
- 7) 清潔に配慮した操作をする。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 9) 安全性に配慮した操作をする。

課題 19 支台歯形成 歯科補綴学講座(冠橋：関根 秀志)

一般目標

歯の欠損・咀嚼障害の治療を行うために、全部鑄造冠の支台歯形成についての基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝えることができる。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) 形成する歯を正しく選択できる。
- 4) タービン保持、レスト設定ができる。
- 5) 歯髄保護に配慮ができる。
- 6) 咬合面を適切に形成できる。
- 7) 患者の不快感や安全性に配慮して形成できる。
- 8) 清潔に配慮した操作ができる。

**課題.20 テンポラリークラウンの製作 歯科補綴学講座(冠橋:関根 秀志)**

一般目標

歯の欠損・咀嚼障害の治療を行うために、テンポラリークラウン製作についての基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝えることができる。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) 適切な既成冠を選択できる。
- 4) 常温重合レジン<sup>注</sup>の操作を適切に行うことができる。
- 5) 適切な辺縁の調整ができる。
- 6) 患者の不快感や安全性に配慮した操作ができる。
- 7) 清潔に配慮した操作ができる。

**課題.21 概形印象採得 歯科補綴学講座(有床:山森 徹雄)**

一般目標

基本的診察を行うために、アルジネート印象材による印象採得の基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを説明する。
- 2) 必要な機材を準備する。
- 3) 処置に応じたポジショニングをとる。
- 4) アルジネート印象材の手練和を適切に行う。
- 5) 印象採得を適切に行う。
- 6) 清潔に配慮した操作をする。
- 7) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 8) 安全性に配慮した操作をする。

**課題.22 矯正装置の説明 成長発育学講座(矯正:佐藤 直生)**

一般目標

不正咬合治療に使用する矯正装置について患者の保護者にわかりやすく説明するために必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 説明の開始にあたって環境を整えることができる。
- 2) 様々な媒体を用いて説明できる。
- 3) 保護者の理解度を確認しながら説明できる。
- 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方ができる。
- 5) 説明の終わりに疑問点を確認できる。
- 6) 不正咬合の状態を説明できる。
- 7) 矯正装置の使用目的を説明できる。
- 8) 矯正装置の特徴と作用機序を説明できる。
- 9) 装置の取り扱いについて説明できる。

**課題.23 保護者へのブラッシング指導 成長発育学講座(小児:加川千鶴)**

一般目標

小児の保護者が家庭で行う有効なブラークコントロールのために、ブラッシング指導についての必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 指導の開始にあたって、環境を整える。
- 2) 指導の概要や自由に質問できることを伝える。
- 3) 小児の年齢にあった仕上げ磨きの方法を指導する。
- 4) 患者(保護者)の理解度を確認しながら指導する。
- 5) 適切な歯ブラシの選択を指導する。
- 6) 保護者に実体験させながら指導する。
- 7) 様々な媒体を用いて指導する。
- 8) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方で説明する。
- 9) 指導の終わりに、指導の要約と疑問点やいい忘れたことの確認をする。

**課題.24 保障装置の説明 成長発育学講座(矯正:佐藤 直生)**

一般目標

保護者に対して保障の必要性を説明するための必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 指導の開始にあたって環境を整えることができる。
- 2) 様々な媒体を用いて指導できる。
- 3) 保護者の理解度を確認しながら指導できる。
- 4) わかりやすい言葉づかいと聞き取りやすい話し方ができる。
- 5) 指導の終わりに、疑問点を確認できる。
- 6) 保障の必要性を説明できる。
- 7) 適切な保障装置を選択できる。
- 8) 保障装置の名称が伝えられる。
- 9) 保障装置の構成・使用方法について説明できる。
- 10) 装着後、定期管理の必要性を説明できる。

**課題.25 予防填塞 成長発育学講座(小児:永山 道代)**

一般目標

小児のう蝕予防に有効な予防填塞処置を行うために、レジン系シーラント材による予防填塞の術式、技能を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝える。
- 2) 処置に応じたポジショニングをできる。
- 3) 歯面及び小窩裂溝部の機械的清掃、化学的清掃ができる。
- 4) 指定された接着システムに基づく歯面処理、シーラント材の填塞ができる。
- 5) レジン系シーラント材の的確な填塞ができる。
- 6) 的確な光照射ができる。
- 7) 清潔に配慮した操作ができる。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作ができる。
- 9) 安全性に配慮した操作ができる。

**課題.26 フッ化物塗布 成長発育学講座(小児:三科祐美子)**

一般目標

小児のう蝕予防に有効なフッ化物塗布を行うために、基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝えることができる。
- 2) 処置に応じたポジショニングをできる。
- 3) 歯面清掃を適切に行うことができる。
- 4) 歯面乾燥を適切に行うことができる。
- 5) 簡易防湿を行うことができる。
- 6) 指定された部位にフッ化物の歯面塗布が適切にできる。
- 7) 清潔に配慮した操作ができる。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作ができる。
- 9) 安全性に配慮した操作ができる。

**課題.27 スケーリング・ルートプレーニング 歯科保存学講座(歯周:高橋 慶治)**

一般目標

スケーリング・ルートプレーニングを適切に実施するための基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝達する。
- 2) 適切なスケーラーを選択する。
- 3) 処置に応じたポジショニングをとる。
- 4) 指定された歯の処置をする。
- 5) 適切なスケーリング・ルートプレーニングを行う。
- 6) 清潔に配慮した操作をする。
- 7) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 8) 安全性に配慮した操作をする。

**課題.28 修復用隔壁の装着 歯科保存学講座(修復:山田 嘉重)**

一般目標

レジン修復用隔壁を装着するために必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝達する。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) トップルマイヤー型マトリックスリテーナーの操作ができる。
- 4) 適切なウェッジ挿入ができる。
- 5) 指定された歯に装着できる。
- 6) 装着状態の確認ができる。
- 7) 清潔に配慮した操作をする。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 9) 安全性に配慮した操作をする。

**課題.29 う蝕象牙質の除去 歯科保存学講座(修復:山田 嘉重)**

一般目標

歯の硬組織疾患の治療を行うために、う蝕象牙質の除去についての基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝達する。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) 指定された歯を処置できる。
- 4) う蝕検知液を使用できる。
- 5) ハンドピースの操作ができる。
- 6) 歯髄保護に配慮ができる。
- 7) う蝕象牙質の除去ができる。
- 8) 清潔に配慮した操作をする。
- 9) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 10) 安全性に配慮した操作をする。

**課題.30 レストシート形成 歯科補綴学講座(有床:山森 徹雄)**

一般目標

レジン修復用隔壁を装着するために必要な基本的態度、技能および知識を修得する。

到達目標

- 1) 患者にこれから行うことを伝達する。
- 2) 処置に応じたポジショニングができる。
- 3) 指定された歯の正しい位置に形成ができる。
- 4) ハンドピースの操作ができる。
- 5) 歯髄保護に配慮ができる。
- 6) レストシートの形成ができる。
- 7) 清潔に配慮した操作をする。
- 8) 患者の痛みや不快感に配慮した操作をする。
- 9) 安全性に配慮した操作をする。

## 臨床総合演習 日程表

班	学籍番号	学年番号	氏名	4月			5月			6月			7月			9月			10月			11月			12月																		
				7	14	21	28	12	19	26	2	9	16	23	30	7	10	14	8	15	22	29	6	13	20	27	10	17	24	1	8	15	22										
1				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	形成的評価	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	M	試験説明	試験	試験	試験											
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K																
2				K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J			K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J						K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
				K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J			K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J						K	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
3				J	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I			J	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I						J	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I
				J	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I			J	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I						J	K	A	B	C	D	E	F	G	H	I
4				I	J	K	A	B	C	D	E	F	G	H			I	J	K	A	B	C	D	E	F	G	H						I	J	K	A	B	C	D	E	F	G	H
				I	J	K	A	B	C	D	E	F	G	H			I	J	K	A	B	C	D	E	F	G	H						I	J	K	A	B	C	D	E	F	G	H
5				H	I	J	K	A	B	C	D	E	F	G			H	I	J	K	A	B	C	D	E	F	G						H	I	J	K	A	B	C	D	E	F	G
				H	I	J	K	A	B	C	D	E	F	G			H	I	J	K	A	B	C	D	E	F	G						H	I	J	K	A	B	C	D	E	F	G
6				G	H	I	J	K	A	B	C	D	E	F			G	H	I	J	K	A	B	C	D	E	F						G	H	I	J	K	A	B	C	D	E	F
				G	H	I	J	K	A	B	C	D	E	F			G	H	I	J	K	A	B	C	D	E	F						G	H	I	J	K	A	B	C	D	E	F
7				F	G	H	I	J	K	A	B	C	D	E			F	G	H	I	J	K	A	B	C	D	E						F	G	H	I	J	K	A	B	C	D	E
				F	G	H	I	J	K	A	B	C	D	E			F	G	H	I	J	K	A	B	C	D	E						F	G	H	I	J	K	A	B	C	D	E
8				E	F	G	H	I	J	K	A	B	C	D			E	F	G	H	I	J	K	A	B	C	D						E	F	G	H	I	J	K	A	B	C	D
				E	F	G	H	I	J	K	A	B	C	D			E	F	G	H	I	J	K	A	B	C	D						E	F	G	H	I	J	K	A	B	C	D
9				D	E	F	G	H	I	J	K	A	B	C			D	E	F	G	H	I	J	K	A	B	C						D	E	F	G	H	I	J	K	A	B	C
				D	E	F	G	H	I	J	K	A	B	C			D	E	F	G	H	I	J	K	A	B	C						D	E	F	G	H	I	J	K	A	B	C
10				C	D	E	F	G	H	I	J	K	A	B			C	D	E	F	G	H	I	J	K	A	B						C	D	E	F	G	H	I	J	K	A	B
				C	D	E	F	G	H	I	J	K	A	B			C	D	E	F	G	H	I	J	K	A	B						C	D	E	F	G	H	I	J	K	A	B
11				B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	A			B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	A						B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	A
				B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	A			B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	A						B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	A

セッション	課題	実習場所 中央棟	担当講座(科)
A	バイタルサイン	5階実習室	口腔外科学講座(麻酔)
	心肺蘇生	5階実習室	口腔外科学講座(麻酔)
B	初診患者の医療面接(急性症状)	4階実習室	保存学講座(歯内)
	初診患者の医療面接(慢性症状)		
C	口腔内状態の記録	4階実習室	保存学講座(歯内)
	修復用隔壁の装着	5階実習室	保存学講座(修復)
D	テンボラリークラウンの作製	4階実習室	歯科補綴学講座(冠橋)
	支台歯形成	4階実習室	歯科補綴学講座(冠橋)
E	エックス線撮影の説明	4階実習室	歯科放射線診断学講座
	矯正装置の説明	5階実習室	成長発育歯学講座(矯正)
F	手洗いと滅菌グローブ装着	4階実習室	口腔外科学講座(口外)
	縫合	5階実習室	口腔外科学講座(口外)

セッション	課題	実習場所 中央棟	担当講座(科)
G	エックス線写真の取り扱いと読影	4階実習室	歯科放射線診断学講座
	保険装置の説明	5階実習室	成長発育歯学講座(矯正)
H	フッ化物塗布	4階実習室	成長発育歯学講座(小児)
	概形印象採得	5階実習室	歯科補綴学講座(有床)
I	普通抜歯	5階実習室	口腔外科学講座(口外)
	頭頸部(顎・顔面・頸部)の診察	5階実習室	口腔外科学講座(口外)
J	浸潤麻酔	5階実習室	口腔外科学講座(麻酔)
	予防填塞	4階実習室	成長発育歯学講座(小児)
K	保護者へのブラッシング指導	5階実習室	成長発育歯学講座(小児)
	ラバーダム防湿/根管治療	4階実習室	保存学講座(歯内)
L	欠損補綴の治療方針の説明	3 1 3教室	歯科補綴学講座(有床)
	ブラッシング指導	3 1 3教室	保存学講座(歯周)
M	スケーリング・ルートプレーニング	3 1 3教室	保存学講座(歯周)
	フィードバック	3 1 3教室	全科
M	フィードバック	3 1 3教室	全科
	フィードバック	3 1 3教室	全科

\* L, Mは全員を対象とした双方向講義

## CBL演習（後期・0.5単位）

科目責任者：板橋 仁（矯正・講師）

科目担当者：①板橋 仁（矯正）、②岡田 英俊（材料）、  
③宇佐美晶信（解剖）、④中川 敏浩（組織）、  
⑤遊佐 淳子（病理）、⑥大須賀謙二（生理）、  
⑦前田 豊信（生化）、⑧長岡 正博（薬理）、  
⑨石田 喜紀（材料）、⑩清浦 有祐（感染）、  
⑪廣瀬 公治（衛生）、⑫佐々木重夫（歯内）、  
⑬佐藤 穂子（歯内）、⑭山森 徹雄（有床）、  
⑮菅野 勝也（外科）、⑯原田 卓哉（放射）

### 1. 科目の概要

臨床実習開始前までに習得すべき歯科医学的知識を総合的に理解することを目的として、第4学年前期までに履修した科目を中心に、視覚素材を取り入れた知識の確認を行う。

### 2. 一般目標

臨床実習開始前までに必要不可欠な総合的知識の理解度を探るために、CBTに準じた試験を行って自身の到達度を知り、フィードバックによって知識を深める。

### 3. 到達目標

- 1) 臨床実習に必要な基礎的知識を確認する。
- 2) 基礎科目と臨床科目を統合した歯科医学的知識を習得する。
- 3) CBTのためのコンピュータ操作を行う。

### 4. 履修の進め方

- 1) 講義形式でスライド、板書、資料を使用して履修する。
- 2) 講義内容を反映した試験をコンピュータを用いて行う。
- 3) 試験終了後にフィードバックを行う。

### 5. 履修の準備（参考書）

該当科目の参考資料・講義ノート 他

### 6. 評価方法

その他

- 1) 各回の授業で行われる試験の結果
- 2) 外部模擬試験（2回）の結果
- 3) 1)を80%、2)を20%とし、65点以上を合格とする。

### 7. 教本

各科で使用する教科書・参考書。

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/8	オリエンテーション	CBL演習について		① ②
2	9/15	解剖	頭頸部の解剖	E-2)-1)-① ～⑤/総IV -1-ア～カ	③
3	9/22	生命科学1	器官や組織の発生、運動系、循環器系	C-2-1)～3)- (3)/総III -1-ア～ク	④
4	9/29	病因と病態	細胞や組織の傷害と再生、炎症	C-4-1)①～ ④, C-4-2)① ～④, C-4-3) ①～⑦, C-4- 4)①～④/ 総VI-2-ア～ ウ, VI-3-ア ～カ, VI-4- ア～ウ, VI -5-ア～カ	⑤
5	10/6	生命科学2	循環器系, 呼吸器系	C-2-3)-(3) (7)/各III -2-ウ, エ	⑥

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	10/13	生命科学3	生命の分子基盤	C-1/必6- ア, 総III-1, IV-4, -5	⑦
7	10/20	生体と薬物	薬物療法および薬理作用	C-5-2)-① ～⑥/総X- 9-ア～テ	⑧
8	10/27	歯科材料の性質	歯科材料の機械的性質・物理的性質	D-1-①②/ 各XI-1-ア～ カ	⑨
9	11/10	感染と免疫	微生物感染とそれに対する宿主応答のメカニズム	C-3-1), 2)/ 総III-3-ア～ エ, VI-6-ア ～キ	⑩
10	11/17	社会と歯学	健康の概念, 歯科医師法と関連法規, 保健医療制度	B-1①②③ B-2-1)①② ③ B-2-2) ①②③/必 2-ウ-a	⑪
11	11/24	臨床歯科医学	歯髄病変, 根尖歯周組織疾患	E-3-3)-(2)/ 各III-5-ア～ キ	⑫ ⑬
12	12/1	欠損補綴歯科治療	全部床義歯, 部分床義歯の理論と臨床	E-3-4)-(1) ～(3)/各V -1～10	⑭
13	12/8	顎・口腔領域の疾患	口腔外科の総論と基本的知識	E-2-1)～4)/ 各IV-1～16	⑮
14	12/15	画像検査	放射線の種類と性質, 画像形成原理, 放射線防護と管理, 画像検査法と診断	E-1-2), E-2-4)/ 総IX-2-ア～ キ, ケ～ツ, 総X-8-ア～ エ, 各IV-7- ア～エ, 各IV -8-ア～コ, 各IV-9-ア～ コ, 各IV-10- ア～コ, 各IV -11-ア～コ	⑯
15	12/22	演習総括	総括試験/CBTに向けて		① ②

## CBT総合講義（後期）

科目責任者：板橋 仁（矯正・講師）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②渡邊 弘樹（組織）、  
③大須賀謙二（生理）、④加藤 靖正（生化）、  
⑤清浦 有祐（感染）、⑥小嶋 忠之（外科）、  
⑦石田 喜紀（材料）、⑧鈴木 恵子（薬理）、  
⑨伊東 博司（病理）、⑩原田 卓哉（放射）、  
⑪関根 秀志（イン）、⑫廣瀬 公治（衛生）、  
⑬山田 嘉重（修復）、⑭山森 徹雄（有床）、  
⑮御代田 駿（外科）、⑯馬場 優（医学）、  
⑰佐々木重夫（歯内）、⑱佐藤 穂子（歯内）、  
⑲高橋 慶壮（歯周）、⑳齋藤 弘毅（歯周）、  
㉑福井 和徳（矯正）、㉒川合 宏仁（生理）、  
㉓加川千鶴世（小児）、㉔永山 道代（小児）、  
㉕瀬川 洋（衛生）、㉖鈴木 史彦（麻酔）、  
㉗古山 昭（生理）、㉘安部 仁晴（組織）

### 1. 科目の概要

生命科学教育科目を中心に臨床実習開始前までに習得すべき口腔科学教育科目について、歯科医学的知識の理解を深めCBT受験の準備をする。

### 2. 一般目標

臨床実習開始前までに必要不可欠な総合的知識を身につけるために、これまでに履修した生命科学教育科目ならびに口腔科学教育科目について理解を深める。

### 3. 到達目標

- 1) 第3学年までに履修した生命科学教育科目について、重要事項を説明する。
- 2) 第4学年前期に履修した口腔科学教育科目について、重要事項を説明する。

### 4. 履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

### 5. 履修の準備（参考書）

該当科目の参考資料・講義ノート 他

### 6. 評価方法

定期試験による総括的評価を行い、65点以上であり、（公社）医療系大学間共用試験実施評価機構によるCBTで65点以上を合格とする。ただしCBTで70点以上の場合合格とする。

### 7. 教本

各科で使用する教科書・参考書。

### 8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	口腔解剖学	頭頸部の解剖 1	E-2-1) / 総 IV-1-ア～シ	①
2	9/4	口腔解剖学	頭頸部の解剖 2	E-2-1) / 総 IV-1-ア～シ	〃
3	9/4	口腔組織学	細胞の微細構造	C-1-3) ① / 必-6-アb 総Ⅲ-1イ	②
4	9/4	口腔組織学	各組織・器官の組織学的特徴	C-2-3) / 必6ア, 総Ⅲ1, 2	〃
5	9/11	口腔生理学	自律機能	C-2 / 総Ⅲ-2	③
6	9/11	口腔生理学	内分泌	C-2 / 総Ⅲ-2	〃
7	9/11	口腔生化学	細胞外マトリックス	C-1 / 必6-ア, 総Ⅲ-1	④

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
8	9/11	口腔生化学	石灰化機構・血清カルシウム濃度の調節機構	C-1, C-2 / 必6-ア, 総Ⅲ-1	④
9	9/25	口腔感染免疫学	微生物と感染	C-3-1)-①, ②, ⑤, ⑥ / 総Ⅵ-6-イ, エ	⑤
10	9/25	口腔感染免疫学	免疫応答とその種類	C-3-2)-①② ③ / 総Ⅲ-3-ア～エ	〃
11	9/25	口腔生化学	核酸, 癌遺伝子, 細胞周期	C-1 / 必6-ア, 総Ⅲ-1	④
12	9/25	口腔内科学	口唇・口腔・顎顔面領域の疾患	E-2-4) / 各 IV-1～16	⑥
13	10/2	生体材料・歯科材料学	歯科材料の性質, 成形修復材, 印象材	D-1, 2 / 総 XI-1～4, 7, 13	⑦
14	10/2	生体材料・歯科材料学	歯冠用材料	D-1, 2 / 総 XI-6, 8, 11, 12	〃
15	10/2	歯科薬理学	薬理作用と作用機序	C-5-2) / 必15-ヒ, 総 X-9-オ	⑧
16	10/2	歯科薬理学	薬物動態と薬物相互作用	C-5-3) / 必15-ヒ, 総 X-9-ウエオ	〃
17	10/16	口腔病理学	細胞・組織の傷害, 適応現象, 物質代謝障害, 循環障害	C-4-1) ~3) / 総Ⅵ-2～4	⑨
18	10/16	口腔病理学	細胞・組織の傷害, 適応現象, 物質代謝障害, 循環障害	C-4-1) ~3) / 総Ⅵ-2～4	〃
19	10/16	歯科放射線学	放射線物理, 画像検査法	E-1-2) / 総 IX-2-ア～カ, 総 IX-2-ク～ツ	⑩
20	10/16	歯科放射線学	確率的影響, 確定的影響	E-1-2) / 総 IX-2-キ, 総 X-8-ア, ウ, エ	〃
21	10/23	口腔インプラント学	インプラントの基本構造	E-3 / 総 V-8	⑪
22	10/23	社会歯科学	社会保障制度 歯科医師法・医療法	B-2-2) / 総 I-6B-2-1) / 必Ⅱ-ウ	⑫
23	10/23	口腔衛生学	齲蝕の予防 (齲蝕の成立ち)	B-3-2) / 各 I-1	〃
24	10/23	口腔衛生学	齲蝕の予防 (フッ化物応用)	B-3-2) / 各 I-1	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	10/30	冠橋義歯補綴学	クラウンブリッジによる治療①	E-3-4)-(1)①~⑮	⑪
26	10/30	冠橋義歯補綴学	クラウンブリッジによる治療②	/各V-1~4	〃
27	10/30	保存修復学	齲蝕の病因と病態. エナメル質齲蝕・象牙質齲蝕・根面齲蝕	E-3/各I-1, III-2	⑬
28	10/30	保存修復学	コンポジットレジン修復およびインレー修復	E-3/総XI-8, 各III-3,	〃
29	11/6	有床義歯補綴学	全部床義歯による治療	E-3-4)-(2)②~⑭/各V-6-ア~シ	⑭
30	11/6	有床義歯補綴学	全部床義歯による治療	E-3-4)-(2)②~⑭/各V-6-ア~シ	〃
31	11/6	口腔外科学	口唇・口腔・顎顔面領域の疾患	E-2-4)/各IV-1~16	⑮
32	11/6	口腔外科学	口唇・口腔・顎顔面領域の疾患	E-2-4)/各IV-1~16	⑯
33	11/13	総合臨床医学	歯科医師に必要な医学知識①	E-4-6/総VIII-1-ウ	⑰
34	11/13	総合臨床医学	歯科医師に必要な医学知識②	E-4-6/総VIII-1-ウ	〃
35	11/13	歯内療法学	歯内疾患と治療(1)	E-3-3)/各III-5,6	⑰ ⑱
36	11/13	歯内療法学	歯内疾患と治療(2)	E-3-3)/各III-5,6	〃
37	11/20	歯周病学	歯周疾患と治療	E-3/総VI-11イ	⑲
38	11/20	歯周病学	歯周疾患と治療	E-3/総VI-11イ	⑳
39	11/20	歯科矯正学	歯科矯正学の総論についての講義を行う。	E-2,4/総V-4	㉑
40	11/20	歯科矯正学	歯科矯正学の診断学および治療学についての講義を行う。	E-1,4-(1)/各II-6~11	〃
41	11/27	歯科麻酔学	麻酔の基本	E-1-3)/総X-4,6,各IV-13	㉒
42	11/27	歯科麻酔学	救急処置	E-1-5)/総X-3,各IV-17,18,19	〃
43	11/27	小児歯科学	成長発育と異常・歯科的対応・小児の歯科疾患と治療・障害児/全身疾患	E-4/必2~15,総II~X,各I~V	㉓

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
44	11/27	小児歯科学	成長発育と異常・歯科的対応・小児の歯科疾患と治療・障害児/全身疾患	E-4/必2~15,総II~X,各I~V	㉔
45	12/4	歯科医療管理学	医療過誤と法的責任について確認する	A-5-1)/必-2-ウ	㉕
46	12/4	障害者歯科学	障害者の歯科治療	E-4-4)/総VIII-3	⑰
47	12/4	高齢者歯科学	摂食嚥下リハビリテーション	E-4-3)/各VI-16-ア-a~イ-e	㉖
48	12/4	口腔解剖学	歯の解剖学	E-3-1)/総IV-4-ア~コ	①
49	12/11	口腔衛生学	保健医療統計	総II-9/B-4-2)	⑫
50	12/11	口腔生化学	唾液, ペリクル, う蝕	C-1, C-2, E-2/必6-イ, 総VI-1	④
51	12/11	口腔生理学	顎反射とその関連事項	E-2/総IV-3	㉗
52	12/11	口腔感染免疫学	口腔の微生物	C-3-1)-①/必-エ-a	⑤
53	12/18	歯科薬理学	総括と問題演習	C-5)/必2, 4, 9, 15, 総X-9	⑧
54	12/18	生体材料・歯科材料学	義歯用材料, 合着・接着材	D-1, 2/総XI-9, 10, 14	⑦
55	12/18	口腔病理学	炎症, 腫瘍	C-4-4), 5)/総VI-5, 7	⑨
56	12/18	口腔組織学	歯と歯周組織の組織学的特徴	E-3-1)/必-6-ウ, 総IV-4	㉘